



utils コマンド

- [utils auditd](#) (2 ページ)
- [utils BE6000Mode*](#) (3 ページ)
- [utils branding*](#) (4 ページ)
- [utils contactsearchauthentication*](#) (5 ページ)
- [utils core*](#) (6 ページ)
- [utils capf*](#) (7 ページ)
- [utils create report](#) (9 ページ)
- [utils create report database](#) (10 ページ)
- [utils ctl](#) (10 ページ)
- [utils cuc*](#) (12 ページ)
- [utils dbreplication*](#) (25 ページ)
- [utils diagnose](#) (34 ページ)
- [utils disaster_recovery*](#) (35 ページ)
- [utils EnhancedSecurityMode*](#) (45 ページ)
- [utils filebeat*](#) (46 ページ)
- [utils filebeat tls](#) (48 ページ)
- [utils fior*](#) (48 ページ)
- [utils fips](#) (52 ページ)
- [utils fips_common_criteria](#) (53 ページ)
- [utils firewall*](#) (54 ページ)
- [utils ha*](#) (59 ページ)
- [utils ils showpeerinfo](#) (65 ページ)
- [utils import config](#) (66 ページ)
- [utils iostat](#) (67 ページ)
- [utils iothrottle](#) (67 ページ)
- [utils itl reset](#) (68 ページ)
- [utils ldap config](#) (69 ページ)
- [utils managementAgent alarms*](#) (70 ページ)
- [utils network*](#) (72 ページ)

- [utils ntp*](#) (81 ページ)
- [utils os*](#) (91 ページ)
- [utils os secure dynamic-policies*](#) (94 ページ)
- [utils PlatformWebAccess*](#) (98 ページ)
- [utils processCoreDumps*](#) (99 ページ)
- [utils remote_account*](#) (100 ページ)
- [utils remotesyslog set protocol*](#) (101 ページ)
- [utils remotesyslog show protocol](#) (103 ページ)
- [utils reset_application_ui_administrator_name](#) (103 ページ)
- [utils reset_application_ui_administrator_password](#) (104 ページ)
- [utils restore_application_ui_administrator_account](#) (104 ページ)
- [utils rosters*](#) (105 ページ)
- [utils scheduled-task*](#) (107 ページ)
- [utils set urlpattern*](#) (108 ページ)
- [utils service*](#) (109 ページ)
- [utils snmp*](#) (112 ページ)
- [utils soap realservice test](#) (125 ページ)
- [utils sso*](#) (125 ページ)
- [utils system*](#) (126 ページ)
- [utils update dst](#) (136 ページ)
- [utils users validate](#) (136 ページ)
- [utils vmtools*](#) (137 ページ)
- [utils system boot status](#) (139 ページ)

utils auditd

このコマンドは、システム監査サービスを開始および停止します。また、システム監査サービスのステータスを表示します。

utils auditd {**enable** | **disable** | **status**}

構文の説明

パラメータ	説明
enable	監査ログの収集をイネーブルにします。イネーブルにすると、システムはユーザーのアクションを監視および記録します。また、ユーザーの作成や削除などの Linux イベントや、ファイルの編集および削除も監視および記録します。
disable	監査ログの収集をディセーブルにします。
status	監査ログの収集のステータスを表示します。監査ログの取得には Real-Time Monitoring Tool の使用をお勧めします。ただし、CLI を使用して監査ログを取得することもできます。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン サービスがイネーブルになっていると、システムアクティビティをモニタし、ログに記録します。システム監査サービスは、多くの情報をログに記録することに注意してください。ディスクが一杯にならないように注意してください

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

utils BE6000Mode*

utils BE6000Mode enable

このコマンドを実行して、Unified Communications Manager の BE6000 モードを有効にします。

コマンドモード 管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager。

utils BE6000Mode disable

このコマンドを実行して、Unified Communications Manager の BE6000 モードを無効にします。

コマンドモード 管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager。

utils BE6000Mode status

このコマンドを実行して、CUCM の BE6000 モードのステータスを確認します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager。

utils branding*

utils branding enable

このノードでブランディングを有効にするには、このコマンドを実行します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

適用対象 : Cisco Unified Communications Manager、IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils branding disable

このノードでブランディングを無効にするには、このコマンドを実行します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

適用対象 : Cisco Unified Communications Manager、IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils branding status

このコマンドを実行すると、このノードでブランディングが有効か無効かを確認できます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

適用対象 : Cisco Unified Communications Manager、IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils contactsearchauthentication*

utils contactsearchauthentication disable

このコマンドは、安全な連絡先検索認証モードを無効にします。このモードを無効にしたら、変更を有効にする電話をリセットする必要があります。

utils contactsearchauthentication disable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils contactsearchauthentication enable

このコマンドは、安全な連絡先検索認証モードを有効にします。このモードを有効にしたら、変更を有効にする電話をリセットします。

utils contactsearchauthentication enable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils contactsearchauthentication status

このコマンドは、システムが連絡先検索認証モードが有効または無効のいずれの状態で作動しているかを表示します。

utils contactsearchauthentication status

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils core*

utils core analyze

このコマンドは、コア ファイルのバックトレース、スレッドリスト、すべての CPU レジスタの現在の値を生成します。

```
utils core {active | inactive} analyze [core_filename]
```

構文の説明

パラメータ	説明
active	アクティブなバージョンを指定します。
inactive	非アクティブなバージョンを指定します。
<i>core_filename</i>	スタック トレースが生成されるコア ファイルの名前を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドにより、コア ファイルと同じ名前で、拡張子が .txt のファイルが、コア ファイルと同じディレクトリに作成されます。cimsrver によって作成されたコア ファイルでこのコマンドを実行すると、予期しないメッセージが表示されます。このメッセージは既知の制限です。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

utils core list

このコマンドは、すべてのアクティブまたは非アクティブなコア ファイルを表示します。

utils core {active | inactive} list

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

utils capf*

utils capf cert import

utils capf cert import

システムにサインインした電話の証明書をアップロードするには、このコマンドを使用します。

使用上のガイドライン

FTP または TFTP を使用して署名付き証明書をインポートすることを選択することもできます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager

utils capf set keep_alive

このコマンドを実行して、認証局プロキシ機能 (CAPF) サービスとエンドポイント間のすべての接続に対して、keep_alive タイマーを設定します。システムのデフォルトは 15 分です

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager

utils capf stale-lsc

utils capf stale-lsc {delete | list}

このコマンドは、システムの古い LSC 証明書の管理に役立ちます。

構文の説明

パラメータ

delete 全ての古い LSC 証明書をシステムから削除します。

list システム上の全ての古い LSC 証明書を一覧表示します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager

utils capf csr

utils capf csr {dump | count | delete | list}

このコマンドは、システムでサードパーティの CA 署名付き証明書を管理するのに役立ちます。

構文の説明

パラメータ

count システムに使用可能な証明書と CSR の数を表示します。

delete システムの全ての証明書と CSR を削除します。

dump 全ての CSR が CA によってサインインされると、このパラメータでローカルサーバにダウンロードします。

list このコマンドは、システムで保留になっている CSR ファイルのタイムスタンプのリストを提供します。リストは CSR 生成の時間の降順で表示されます。

使用上のガイドライン

このコマンドセットを使用する方法については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/>

[products-maintenance-guides-list.html](#) で『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Generate and Import Third Party CA-Signed LSCs」の手順を参照してください。

要件

コマンド特権レベル：count パラメータの場合は0、delete および dump パラメータの場合は1。

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager

utils create report

このコマンドは、サーバに関するレポートを platform/log ディレクトリ内に作成します。

utils create report {hardware | platform | security}

構文の説明

パラメータ	説明
hardware	ディスク アレイ、リモート コンソール、診断、および環境のデータを含むシステム レポートを作成します。
platform	プラットフォーム コンフィギュレーション ファイルが TAR ファイルに収集されます。
security	診断レポートを収集し、TAR ファイルを作成します。TAR ファイルは、トラブルシューティングを行う場合にダウンロードできます。このファイルは、 file get コマンドを使用して取得できます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

コマンドを入力すると、続行を求めるプロンプトが表示されます。

レポートを作成した後、**file get activelog platform/log/filename** コマンドを使用してレポートを取得します。*filename* は、コマンドが完了した後で表示されるレポートのファイル名を指定します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

utils create report database

このコマンドは、データベースのトラブルシューティングに必要なすべてのログファイルを収集します。

utils create report {hardware | platform | security}

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils ctl


utils ctl {set-cluster mixed-mode | set-cluster non-secure-mode | update CTLFile}

このコマンドは、クラスタセキュリティモードを変更するか、各ノードで CTL ファイルを更新します。

構文の説明

パラメータ	説明
set-cluster mixed-mode	<p>CTL ファイルを更新し、クラスタを混合モードに設定します (DB セキュアモードが 1 に設定されます)。</p> <p>クラスタですでに混合モードが有効になっている場合、このコマンドは、Unified Communications Manager が混合モードであり、自動登録がアクティブであることを示します。操作を確認する必要があります。</p> <p>(注) 混合モードを有効にするには、Communications Manager が Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録されていること、およびスマートアカウントまたはバーチャルアカウントから受信した登録トークンでエクスポート制御機能の許可が有効になっており、そのトークンがこのクラスタに登録されていることを確認します。</p>
set-cluster non-secure-mode	<p>CTL ファイルを更新し、クラスタを非セキュアモードに設定します。</p> <p>クラスタですでに混合モードが有効になっている場合、このコマンドは、Unified Communications Manager が非セキュアモードであることを示します。</p>

パラメータ	説明
update CTLFile	クラスタの各ノードで、CTL ファイルを更新します。 (注) 混合モードで CTLFile を更新するには、Unified Communications Manager が Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録されていること、およびスマートアカウントまたはバーチャルアカウントから受信した登録トークンでエクスポート制御機能の許可が有効になっており、そのトークンがこのクラスタに登録されていることを確認します。

コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	この CLI は、パブリッシャで実行する必要があります。他のすべてのノードでは、この CLI コマンドがディセーブルにされています。
	(注) CTL ファイルの再生成後、クラスタ全体で CallManager および TFTP サービスを再起動する必要があります。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager。

utils ctl reset localkey

このコマンドは CTL ファイルの再生成に使用され、セカンダリ SAST ロール (CallManager) でそれを署名します。元の CTL ファイルに署名するために使用された ITLRecovery 証明書が変更され、エンドポイントがロックアウトされた場合にこのコマンドを使用します。

utils ctl reset {localkey}

構文の説明	localkey パブリッシャの CTL ファイルを更新して、新しい CTL ファイルを生成します。コマンドは CallManager キーで CTLfile に署名します。
コマンドモード	管理者 (admin:)

使用上のガイドライン



- (注)
- このコマンドは、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードで実行する必要があります。
 - エンドポイントが、CallManager キーで署名されて新しい ITLRecovery 証明書が含まれている新しい CTL ファイルを受信した後、CTL 更新コマンド (ユーティリティ `ctl update CTLFile`) を実行して、ITLRecovery 証明書で署名します。CTL ファイルは再生成されますが、エンドポイントによって信頼されている新しい ITLRecovery 証明書によって署名されます。

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager

utils cuc*

utils cuc activate CUSRSV

このコマンドは、スタンドアロン Cisco Unity Connection サーバを Cisco Unity Connection SRSV サーバに変換します。

utils cuc activate CUSRSV

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Cisco Unity Connection

utils cuc auto ITL download

このコマンドでは、Unity Connection が Cisco Unity Connection の CallManager 証明書を自動ダウンロードする機能を無効にすることができます。

utils cuc auto ITL download { enable | disable | status }

シンテックス説明

パラメータ	説明
enable	ポートグループのリセットでの CallManager 証明書の自動ダウンロード機能を有効にします。 この機能はデフォルトでは有効になっています。
disable	CallManager 証明書を自動的にダウンロードする機能を無効にします。無効にした場合は、証明書を手動でアップロードする必要があります。
status	機能のステータスを表示します。



(注) クラスタの場合、CLI コマンドはパブリッシャ サーバ上でのみ実行されます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Cisco Unity Connection

例

```
admin:utils cuc auto ITL download enable
After successful execution,Unity Connection will download trust list from the TFTP server
automatically.
For this, you must do the following:

1.Configure TFTP server for Next Generation enabled port groups through Cisco Unity
Connection Administration
2. Restart the Connection Conversation Manager on all nodes in the cluster
Auto downloading of ITL enabled successfully
```

utils cuc cluster activate

このコマンドは、このサーバを Cisco Unity Connection クラスタ内でアクティブにします。

utils cuc cluster activate

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Cisco Unity Connection

utils cuc cluster deactivate

このコマンドは、このサーバを Cisco Unity Connection クラスタ内で非アクティブにします。

utils cuc cluster deactivate**コマンドモード**

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Cisco Unity Connection

utils cuc cluster makeprimary

このコマンドを実行すると、指定されたサーバは Cisco Unity Connection クラスタ内でプライマリ サーバステータスを取得するようになります。

utils cuc cluster makeprimary**構文の説明**

パラメータ	説明
server	Cisco Unity Connection クラスタ内でプライマリ サーバステータスを取得するサーバの名前を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Cisco Unity Connection

utils cuc cluster overwrittenb

このコマンドは、サーバ上のデータを Cisco Unity Connection クラスタ内の他のサーバにあるデータで上書きします。

utils cuc cluster overwrittenb

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン このコマンドは、このコマンドを実行するサーバ上のデータベースを、Connection クラスタ内の他のサーバにあるデータベースで上書きします。データベースが上書きされると、複製が再起動されます。この方法は、バックアップからあるサーバを復元し、その復元したデータを他のサーバにコピーする必要があるときに使用されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Cisco Unity Connection

utils cuc cluster renegotiate

このコマンドは、Connection クラスタ内のパブリッシャ サーバを交換した後またはパブリッシャ サーバに Connection を再インストールした後、パブリッシャ サーバとの間にクラスタ関係を構築します。このコマンドにより、パブリッシャサーバ上のすべてのデータがサブスクライバサーバのデータで上書きされ、サーバ間の複製が初期化されます。

utils cuc cluster renegotiate

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン このコマンドは、Connection クラスタ内のサブスクライバサーバで実行して、交換したパブリッシャサーバまたは Connection を再インストールしたパブリッシャサーバとの間に信頼関係を設定します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Cisco Unity Connection

utils cuc create report

このコマンドは、テクニカルサポートのスタッフがシステムをトラブルシューティングするのに役立つデータを収集します。収集されるデータには、バージョン情報、クラスタステータ

ス、サービス情報、データベース情報、トレース ファイル、ログ ファイル、ディスク情報、メモリ情報、および再起動情報が含まれます。

utils cuc create report

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

コマンドが完了すると、詳細情報が .zip ファイルに保存され、その .zip ファイルの場所が表示されます。**fileget** コマンドを使用して、ファイルを圧縮解除して内容を表示できるコンピュータに移動します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Cisco Unity Connection のみ

例

```
admin: utils cuc create report
Getting unity connection version. Please wait...Done
Getting cluster status. Please wait...Done
Getting service information. Please wait...Done
Getting installed locales. Please wait...Done
Getting database schema version. Please wait...Done
Getting database integrity. Please wait...Done
Getting database diagnostic log. Please wait...Done
Getting database message log. Please wait...Done
Getting trace files. Please wait...Done
Getting log files. Please wait...Done
Getting platform status. Please wait...Done
Compressing 75 files. Please wait...Done
Output is in file: cuc/cli/systeminfo_080318-140843.zip
To free disk space, delete the file after copying it to another computer
```

utils cuc dbreplication*

utils cuc dbreplication 01_tear_down

このコマンドは、クラスタ内の Unity Connection サーバ間の複製および接続を切断します。両方のサーバでこのコマンドを実行すると、サーバ間で優れた複製を確立する前に理想的なクリーンアップを確認します。

utils cuc dbreplication 01_tear_down

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

長い Unity Connection データベース CDR キューが蓄積される場合、クラスタ内の 2 台のサーバ間でサーバ接続および複製を確立するクリーンな基盤を提供するため、このコマンドがその蓄積をクリーンアップします。



(注) 次の処理が推奨されます。

- コマンドを実行する前にシステムをバックアップします。
- コマンドが失敗した場合、コマンドラインログとともに画面ログ情報を収集し、Cisco TAC にエスカレートします。
- 必ず Cisco TAC のみがコマンドを実行するようにします。
- 別のサーバ上の情報と対立するデータを削除する同期プロセスとして、サーバ上で古いデータとともにコマンドを実行します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Cisco Unity Connection

utils cuc dbreplication 02_define_servers

このコマンドは、クラスタ内の Unity Connection サーバ間のネットワーク接続を確立します。

utils cuc dbreplication 02_define_servers

コマンド モード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、Unity Connection クラスタ内で 1 台のサーバから別のサーバに CDR トラフィックを追跡およびレポートできます。SBR プロセスにおいて、このコマンドはクラスタの 2 台のサーバのロールを定義するのに役立ちます。



(注) 次の処理が推奨されます。

- コマンドを実行する前にシステムをバックアップします。
- コマンドが失敗した場合、コマンドラインログとともに画面ログ情報を収集し、Cisco TAC にエスカレートします。
- 必ず Cisco TAC のみがコマンドを実行するようにします。
- 別のサーバ上の情報と対立するデータを削除する同期プロセスとして、サーバ上で古いデータとともにコマンドを実行します。



(注) このコマンドは、Unity Connection クラスタに古いデータがあるサーバで実行する必要があります。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Cisco Unity Connection

utils cuc dbreplication 03_define_db_template

このコマンドは、同期レプリケーションのため、Unity Connection データベースでテーブルの設定のレプリケーションレコードを作成します。また、このコマンドは、レプリケーションスキーマを確立する必要がある Unity Connection データベースのテーブルテンプレートをネゴシエートします。

utils cuc dbreplication 03_define_db_template

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドは、すべてのテーブルをリスト表示し、Unity Connection クラスタの 2 台のサーバ間でどのデータがネゴシエートおよび同期されるかに基づいてテンプレートを定義します。



(注) 次の処理が推奨されます。

- コマンドを実行する前にシステムをバックアップします。
- コマンドが失敗した場合、コマンドラインログとともに画面ログ情報を収集し、Cisco TAC にエスカレートします。
- 必ず Cisco TAC のみがコマンドを実行するようにします。
- 別のサーバ上の情報と対立するデータを削除する同期プロセスとして、サーバ上で古いデータとともにコマンドを実行します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Cisco Unity Connection

utils cuc dbreplication 04_sync_database

このコマンドは、リモートサーバからコマンドが実行されるサーバにデータベースを同期させます。

utils cuc dbreplication 04_sync_database

コマンド モード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドは、現在のサーバ上のリモートサーバから最新データをコピーするため、Unity Connection クラスタに古いデータがあるサーバで実行する必要があります。



(注) 次の処理が推奨されます。

- コマンドを実行する前にシステムをバックアップします。
- コマンドが失敗した場合、コマンドラインログとともに画面ログ情報を収集し、Cisco TAC にエスカレートします。
- 必ず Cisco TAC のみがコマンドを実行するようにします。
- 別のサーバ上の情報と対立するデータを削除する同期プロセスとして、サーバ上で古いデータとともにコマンドを実行します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Cisco Unity Connection

utils cuc dbreplication reset_all

このコマンドは、Unity Connection クラスタの 2 台のサーバ間のデータベース レプリケーションをリセットするために必要な、サーバの破棄や定義などのすべてのタスクを実行します。

utils cuc dbreplication reset_all

コマンド モード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドは、以下のコマンドを順番に実行し、Unity Connection クラスタの 2 台のサーバ間のデータベース レプリケーションを確実にリセットします。

- utils cuc dbreplication01_tear_down
- utils cuc dbreplication 02_define_servers
- utils cuc dbreplication 03_define_db_template
- utils cuc dbreplication 04_sync_database



(注) 次の処理が推奨されます。

- コマンドを実行する前にシステムをバックアップします。
- コマンドが失敗した場合、コマンドラインログとともに画面ログ情報を収集し、Cisco TAC にエスカレートします。
- 必ず Cisco TAC のみがコマンドを実行するようにします。
- 別のサーバ上の情報と対立するデータを削除する同期プロセスとして、サーバ上で古いデータとともにコマンドを実行します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Cisco Unity Connection

utils cuc encryption

このコマンドは、Cisco Unity Connection で暗号化のステータスを有効化、無効化、および指定します。

utils cuc encryption { enable | disable | status }

シンテックス説明

パラメータ	説明
enable	Unity Connection で暗号化を有効にします。有効にすると、Unity Connection でセキュリティ機能を使用できます。
disable	Unity Connection で暗号化を無効にします。無効にすると、Unity Connection でセキュリティ機能を使用できません。
status	Unity Connection の暗号化ステータスを表示します。

使用上のガイドライン

Unity Connection で暗号化を有効にするときは、次の点を確認してください。

- Cisco Unity Connection が、Cisco Smart Software Manager (CSSM) または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録されている。
- エクスポート制御機能が対象製品で有効になっている。

Cisco Unity Connection のエクスポート制御機能を登録および有効にする方法の詳細については、

https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/12x/install_upgrade/guide/b_12xcuciumg.html

で入手可能な『*Install, Upgrade and Maintenance Guide for Cisco Unity Connection Release 12.x*』の「Managing Licenses」の章の「Configuring Cisco Smart Software Licensing in Unity Connection」の項を参照してください。



(注) クラスタの場合、CLI はパブリッシャ サーバ上でのみ実行されます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Cisco Unity Connection

例

```
admin:utils cuc encryption enable
After successful execution, restart the following services on all nodes in the cluster

1.Connection Conversation Manager
2.Connection IMAP Server

Do you want to proceed (yes/no)? yes
Encryption enabled successfully
```

utils cuc jetty ssl disable

このコマンドは、通知のためにJetty サーバで SSL のステータス（無効）を設定することができます。

utils cuc jetty ssl disable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Cisco Unity Connection

例

```
admin: utils cuc jetty ssl disable
```

```
After successful execution of this command restart of Jetty server is required, which
will result in loss of current event subscriptions. Are you sure?
Enter (yes/no)? yes
```

```
Command completed successfully.
Please restart Connection Jetty Service.
In case of cluster, run this command on the other node also.
```

utils cuc jetty ssl enable

このコマンドを使用すると、通知用に Jetty サーバで SSL を有効にできます。

utils cuc jetty ssl enable

使用上のガイドライン

Jetty サーバで SSL を有効にするときは、次の点を確認してください。

- Cisco Unity Connection の制限バージョンを使用している。
- 暗号化が Cisco Unity Connection で有効になっている。



(注) 評価モードでは、CLI コマンドを実行できない。

詳細については、

https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/12x/security/b_12xcucsecx.html で入手可能な『Security Guide for Cisco Unity Connection Release 12.x』の「Cisco Unity Connection-Restricted and Unrestricted Version」の章を参照してください。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Cisco Unity Connection

例

```
admin: utils cuc jetty ssl enable
```

```
After successful execution of this command restart of Jetty server is required, which
will result in loss of current event subscriptions. Are you sure?
Enter (yes/no)? yes
```

```
Command completed successfully.
Please restart Connection Jetty Service.
In case of cluster, run this command on the other node also.
```

utils cuc networking clear_replication

このコマンドは、サーバ上のすべての Digital Networking 複製アクティビティを停止します。

utils cuc networking clear_replication

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドは、Connection Digital Networking Replication Agent および Connection SMTP サービスを停止した後、drop、queue、および pickup replication フォルダを削除し、このサーバに対して進行中のディレクトリのプッシュまたはプルステータスをクリアしてから、Connection Digital Networking Replication Agent および Connection SMTP サービスを再起動します。複製フォルダのサイズによって、この操作には数分かかることがあります。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Cisco Unity Connection

utils cuc networking dscp

このコマンドでは、クラスタ内の Connection サーバ間で送信されるパケットの DSCP 値を 18 に設定する処理を開始または停止できます。このため、DSCP 値に基づいてパケットの優先順位を決定するルータでは、Connection データおよびボイスメッセージを優先させることができます。

utils cuc networking dscp {on | off}

構文の説明

パラメータ 説明

on ネットワークで送信されるパケットの DSCP 値を 18 に設定する処理を開始します。

off ネットワークで送信されるパケットの DSCP 値を 18 に設定する処理を停止します。18 はデフォルト値です。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドは、クラスタ内の Connection サーバ間で渡されるパケットで DSCP 値を使用できるようにします。実際に DSCP 値を使用するには、ルータを設定する必要があります。このコマンドでは、発信パケットに DSCP 値を含めるかどうかは制御できますが、DSCP 値自体は変更できません。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Cisco Unity Connection のみ

utils cuc reset password

このコマンドは、指定されたユーザアカウントのパスワードをリセットします。サインインを試行して失敗した回数が多すぎるために Connection がアカウントをロックした場合は、このコマンドもアカウントのロックを解除します。

utils cuc reset password

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Cisco Unity Connection のみ

例

```
admin: utils cuc reset password jdoe
Enter password:
Re-enter password:
jdoe
07/29/2008 12:41:14.704 : Update SUCCEEDED
```

utils cuc set PinExpiry_PromptTime "Authentication Rule Name"

このコマンドは、Cisco Unity Connection 電話ユーザ インターフェイス（タッチトーンカンバセーション）PIN 機能をイネーブルにし、条件付き期限切れの警告プロンプトが再生されている間、時間間隔を更新できるようにします。

要件

次の値に設定されている場合：

- 0：ディセーブル
- 1：イネーブル
- 時間間隔を入力します。

utilscuc set PinExpiry_PromptTime "Authentication Rule Name" CLI コマンドの詳細については、『Release Notes for Cisco Unity Connection 10.0(1)』の「Cisco Unity Connection telephone user interface (touchtone conversation) PIN」の項を参照してください。

utils dbreplication*

utils dbreplication dropadmindb

このコマンドは、クラスタ内のすべてのサーバにある Informix の syscdr データベースをドロップします。

utils dbreplication dropadmindb

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドは、データベースレプリケーションのリセットまたはクラスタのリセットが失敗し、複製を再起動できない場合にのみ使用します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils dbreplication forcedatasyncsub

このコマンドを実行すると、サブスクリバサーバのデータがパブリッシャサーバ上のデータから復元されます。

utils dbreplication forcedatasyncsub *nodename* [**offloadpub**] [*timeoutvalue*]

構文の説明

パラメータ 説明

nodename 特定のサブスクリバサーバのデータをパブリッシャサーバ上のデータから復元するように指定します。すべてのサブスクリバサーバでデータを復元するには、**a11** を入力します。

offloadpub forcedatasyncsub プロセス中のパブリッシャサーバの使用量を最小限に抑えます。

(注) このオプションを追加すると、forcedatasyncsub が完了するまでの時間が増加します。

パラメータ 説明

timeoutvalue 各ノードに対してリカバリタイムアウトの値を分単位で指定します（デフォルトのタイムアウトより大きくする必要があります）。

デフォルトは 40 分です。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドは、**utils dbreplication repair** コマンドを数回実行してから **utils dbreplication status** コマンドを実行しても、非動的テーブルが同期しない場合にのみ使用します。



(注) 動的テーブルが同期しないだけの場合には使用しないでください。動的テーブルは、通常のシステム動作中でも同期しないことがあります。

このコマンドは、パブリッシャサーバからのみ実行できます。クラスタ内のすべてのサブスクライバサーバ上で同期を強行するには、**all** を入力します。1 つのサブスクライバサーバだけが同期しない場合は、*nodename* パラメータを使用します。



(注) このコマンドでは、サブスクライバサーバ上にある既存のデータはすべて消去され、パブリッシャサーバ上のデータに置き換えられます。そのため、サブスクライバサーバのテーブルが同期しなくなった原因を調べることはできなくなります。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils dbreplication quickaudit

このコマンドは、動的テーブル上の選択された内容に対して、短時間のデータベースチェックを実行します。

utils dbreplication quickaudit {*nodename* | **all**}

構文の説明**パラメータ 説明**

nodename 短時間の監査を実行するノードを指定します。

all すべてのノードで監査が実行されます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils dbreplication rebuild

このコマンドは、クラスタ間でデータベースのレプリケーションを設定し、指定されたノードで次のコマンドを実行するために使用します。

- **utils dbreplication stop**
- **utils dbreplication dropadmindb or dropadmindbforce**
- **utils dbreplication reset**

```
utils dbreplication rebuild {[nodename] | all}
```

構文の説明

パラメータ	説明
<i>nodename</i>	データベース レプリケーションを再構築するノードを指定します。
all	クラスタ内のすべてのノードで再構築されるデータベース レプリケーションを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン



注意 このコマンドは、クラスタ内の他のノードのパフォーマンスに影響する場合があります。システムメンテナンス ウィンドウでこのコマンドを実行することを推奨します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils dbreplication repair

このコマンドは、データベース複製を修復します。

utils dbreplication repair {*nodename* | **all**}

構文の説明

パラメータ 説明

nodename データ修復を行う特定のサブスクリバサーバを指定します。

all すべてのサブスクリバサーバでデータ修復が行われます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

サーバが接続されていることが **utils dbreplication status** コマンドによって示されているにもかかわらず、1つまたは複数のテーブルのデータが同期しない場合に、**utils dbreplication repair** コマンドはサブスクリバサーバ上のデータがパブリッシャサーバ上のデータと同期するように修復します。

クラスタ内のすべてのノードを修復するには、**all**パラメータを指定します。1つのサブスクリバサーバだけが同期していない場合は、*nodename* パラメータを指定します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils dbreplication repairreplicate

このコマンドは、クラスタノード間で一致していないデータを修復し、パブリッシャデータと一致するようにノードデータを変更します。

utils dbreplication repairreplicate *replicatename* [{*nodename* | **all**}]

構文の説明

パラメータ 説明

replicatename 修復する複製を指定します。

nodename 複製を修復するノードを指定します。

all すべてのノードで複製を修復することを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン パラメータ *nodename* は、パブリッシャを指定するとは限りません。サブスクリイバのノード名も指定できます。



(注) このコマンドは、パブリッシャ上で実行できます。



(注) このコマンドは、複製の設定は修復しません。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils dbreplication repairable

このコマンドは、クラスタ ノード間で一致していないデータを修復し、パブリッシャ データと一致するようにノードを変更します。

utils dbreplication repairable *tablename* [{*nodename* | **all**}]

構文の説明

パラメータ **説明**

tablename 修復するテーブルを指定します。

nodename 複製を修復するノードを指定します。

all すべてのノードで複製を修復することを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン



(注) このコマンドは、複製の設定は修復しません。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils dbreplication reset

このコマンドは、データベース複製をリセットして再起動します。システムで複製が適切に設定されていないときは、このコマンドを使用して複製を再構築できます。

utils dbreplication reset {*nodename* | **all**}

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>nodename</i>	特定のサブスクリバサーバの複製が再構築されるように指定します。
	all	クラスタ内のすべてのサブスクリバサーバの複製が再構築されるように指定します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン このコマンドは、サーバで RTMT 状態 4 が示されたときに使用するのに最適なオプションです。1つのサブスクリバサーバだけが RTMT 状態 4 を示している場合は、*hostname* パラメータを指定することにより、そのサーバをリセットできます。クラスタ全体をリセットするには、**all** パラメータを使用します。



ヒント このコマンドを実行する前に、リセットするすべてのサブスクリバサーバで **utils dbreplication stop** コマンドを実行し、その後、パブリッシャサーバでも実行します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils dbreplication runtimestate

このコマンドは、データベース複製プロセスの進捗を監視し、クラスタ内の複製状態を出力します。


utils dbreplication runtimestate *nodename*

構文の説明	<p>パラメータ 説明</p> <hr/> <p><i>nodename</i> モニタするノードを指定します。</p>
コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	<p>ノード名を指定すると、選択されたノードのコンテキストから複製状態が出力されます。</p> <p>要件</p> <p>コマンド特権レベル：0</p> <p>アップグレード時の使用：可能</p> <p>適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection</p>

utils dbreplication setprocess

このコマンドは、WAN によって分離されて遅延を伴うノードを持つクラスター（WAN でのクラスター設定）の複製パフォーマンスを向上させます。

utils dbreplication setprocess [*process*]

構文の説明	<p>パラメータ 説明</p> <hr/> <p>process 新規のデータベース複製。この値は、1 から 40 までです。 デフォルト値：1</p>
コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	<p> 注意 process オプションを最大値に近い値に設定すると、システムリソースの消費量が増加します。アップグレードの後、新しいバージョンに切り替える前に行った変更は、手動で再適用する必要があります。</p> <hr/> <p>要件</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の使用：不可</p>

utils dbreplication setreptimeout

このコマンドは、大きなクラスタでデータベース複製のタイムアウトを設定します。

utils dbreplication setreptimeout タイムアウト

構文の説明

パラメータ 説明

timeout 新しいデータベース複製のタイムアウト時間（秒）。この値は、300 から 3600 までです。

デフォルト値 : 300 (5 分)

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

最初のサブスクライバサーバがパブリッシャサーバに複製を要求すると、このタイマーが設定されます。タイマーの期限が切れると、最初のサブスクライバサーバ、およびその期間内に複製を要求した他のすべてのサブスクライバサーバが、パブリッシャサーバとの間でバッチによるデータ複製を開始します。複数のサブスクライバサーバがある場合は、個別のサーバ複製よりもバッチ複製が効率的です。大きなクラスタでは、このコマンドを使用してデフォルトのタイムアウト値よりも大きくすることで、バッチに含めるサブスクライバサーバの数を増やすことができます。



ヒント

クラスタ全体のアップグレードが完了し、サブスクライバサーバの複製が適切に設定されたら、この値をデフォルトの 300 (5 分) に戻すことをお勧めします。



(注)

パブリッシャサーバをアップグレードし、アップグレード後のパーティションで再起動する場合は、最初のサブスクライバサーバを新しいリリースに切り替える前に、このタイマー値を設定する必要があります。最初のサブスクライバサーバが複製を要求すると、パブリッシャサーバはこの新しい値に基づいて複製タイマーを設定します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils dbreplication status

このコマンドは、データベース複製のステータスを表示し、クラスタ内のサーバが接続されてデータが同期しているかどうかを示します。

utils dbreplication status {all | node | replicate}

構文の説明

パラメータ 説明

all すべてのサーバのステータスを表示するように指定します。

node ステータスを表示するノードを指定します。

replicate ステータスを表示する複製を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン



(注) このコマンドは、クラスタの最初のノード (パブリッシャサーバ) でのみ実行してください。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils dbreplication stop

このコマンドは、データベース複製の自動設定を停止します。サブスクリイバーおよびパブリッシャサーバでこのコマンドを実行する前に、CLI コマンド **utils dbreplication reset** または **utils dbreplication clusterreset** を実行してください。このコマンドは、パブリッシャサーバで実行する前に複数のサブスクリイバサーバで同時に実行できます。

utils dbreplication stop {nodename | all}

構文の説明

パラメータ 説明

nodename データベース複製の自動設定を停止するノードの名前を指定します。

all すべてのノードでデータベース複製を停止します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils imdb_replication replication status

このコマンドは、導入における各サブクラスタのノードペア間のインメモリデータベース (IMDB) レプリケーションが正しく動作することを検証します。

このコマンドは、IM and Presence サービスノードの発信からのユーティリティを使用して、それぞれの関連するデータストアの IMDB テーブルで読み取りおよび書き込みを実行します。

```
utils imdb_replication status
```

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

ユーティリティを正常に実行するには、IM and Presence サービスクラスタのノード間で設定されたすべてのファイアウォールでポート 6603、6604、6605 が開いている必要があります。

これは IMDB の正常な動作には不要です。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : IM and Presence サービス

utils diagnose

このコマンドを使用すると、システムの問題を診断し、自動修復を試行できます。

```
utils diagnose {fix | list | module | test | version} [module_name]
```

構文の説明

パラメータ 説明

fix すべての診断コマンドを実行し、問題の修復を試行します。

hcs HCS サービスで使用可能なすべての診断コマンドをリスト表示します。

list 使用可能なすべての診断コマンドをリスト表示します。

パラメータ	説明
module	単独の診断コマンドまたはコマンドのグループを実行し、問題の修復を試行します。
test	すべての診断コマンドを実行しますが、問題の修復は試行しません。
version	診断フレームワークのバージョンを表示します。
<i>module_name</i>	診断モジュールの名前を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：**version** の場合は 0、その他すべてのパラメータの場合は 1

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

utils disaster_recovery*

utils disaster_recovery backup network

リモート サーバに格納されるバックアップ ファイルに関する情報を表示します。

utils disaster_recovery backup network [*featurelist*][*path*][*servername*][*username*]

構文の説明

パラメータ	説明
[<i>featurelist</i>]	バックアップする機能のリストを、カンマ区切りで指定します。
[<i>path</i>]	リモート サーバ上のバックアップ ファイルの場所を表します。
[<i>servername</i>]	バックアップ ファイルを格納するサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。
[<i>username</i>]	リモート サーバにログインするときに必要なユーザ名を表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

リモートサーバ上のアカウントのパスワードを入力するように要求するプロンプトが表示されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils disaster_recovery cancel_backup

このコマンドは、進行中のバックアップ ジョブをキャンセルします。

utils disaster_recovery cancel_backup [*confirm*]

コマンド モード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

コマンドの入力後、バックアップのキャンセルについて確認する必要があります。**Y**を押すとバックアップがキャンセルされ、それ以外のキーを押すとバックアップが続行します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

例

```
admin: utils disaster_recovery cancel_backup yes
Cancelling backup...
Backup cancelled successfully.
```

utils disaster_recovery device add network

このコマンドは、バックアップ ネットワーク デバイスを追加します。

utils disaster_recovery device add network *devicename path server_name/ip_address username* [*Number_of_backups*]

構文の説明

パラメータ	説明
<i>devicename</i>	追加するバックアップ デバイスの名前を指定します (必須)。
<i>path</i>	バックアップ デバイスを取得するパスを指定します (必須)。
<i>server_name/ip_address</i>	バックアップ ファイルが格納されているサーバのホスト名または IP アドレスを指定します (必須)。

パラメータ	説明
<i>username</i>	リモートマシンに接続するために必要なユーザ ID を指定します (必須)。
[<i>Number_of_backups</i>]	ネットワーク ディレクトリに格納するバックアップの数を指定します (デフォルトは 2)。このパラメータはオプションです。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

例

```
admin: utils disaster_recovery device add network networkDevice /root 10.77.31.116 root
3
```

utils disaster_recovery device delete

このコマンドは、指定されたデバイスを削除します。

```
utils disaster_recovery device delete
device_name*
```

構文の説明

パラメータ	説明
<i>device_name</i>	削除するデバイスの名前です。
*	スケジュールに関連付けられているデバイスを除き、既存のすべてのデバイスを削除します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils disaster_recovery device list

すべてのバックアップ デバイスのデバイス名、デバイス タイプ、およびデバイス パスを表示します。

utils disaster_recovery device list

コマンド モード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils disaster_recovery estimate_tar_size

このコマンドは、SFTP またはローカル デバイスから最後に成功したバックアップの推定サイズを示します。

utils disaster_recovery estimate_tar_size utils disaster_recovery device list

構文の説明

パラメー 説明
タ

featurelist バックアップする機能のリストを、カンマ区切りで指定します。

コマンド モード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils disaster_recovery history

このコマンドは、以前のバックアップと復元の履歴を表示します。

utils disaster_recovery history [*operation*]

構文の説明

パラメータ	説明
<i>operation</i>	バックアップまたは復元を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル:

アップグレード時の使用:

適用対象: Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

例

```
admin: utils disaster_recovery history backup
Tar Filename: Backup Device: Completed On: Result: Backup Type: Features Backed Up:
2009-10-30-14-53-32.tar TAPE Fri Oct 30 14:55:31 CDT 2009 ERROR MANUAL
2009-12-10-10-30-17.tar TAPE Thu Dec 10 10:35:22 CST 2009 SUCCESS MANUAL CDR_CAR,CCM
```

utils disaster_recovery jschLogs operation

このコマンドは、JSch の詳細ロギングを有効および無効にします。

utils disaster_recovery jschLogs operation [*operation*]

構文の説明

パラメータ	説明
<i>operation</i>	操作の名前 (enable または disable) を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル: 1

アップグレード時の使用: 可能

適用対象: Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils disaster_recovery prepare restore pub_from_sub

このコマンドは、サブスクリバノードからパブリッシャノードを復元する準備をするためのタスクを処理します。



- (注) このコマンドは、パブリッシャ ノードを再構築し、サブスクリバ ノード データベースから復元する場合にのみ使用できます。リモート バックアップ ソースからデータを復元する代わりに、特定の復元手順が使用されます。パブリッシャ ノードが再構築されたら、プロセス ノード情報の挿入前にこのコマンドを使用する必要があります。

utils disaster_recovery prepare restore pub_from_sub

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils disaster_recovery restore network

このコマンドは、リモート サーバを復元します。同じクラスタのサブスクリバ ノードを復元する前に、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードを復元する必要があります。IM and Presence Service ノードを復元すると、同じクラスタ内のサブスクリバ ノードを復元する前にデータベース パブリッシャ ノードを復元する必要があります。

utils disaster_recovery restore network restore_server tarfilename devicename

構文の説明

パラメータ 説明

restore_server 復元するリモートサーバのホスト名を指定します。

tarfilename 復元するファイルの名前を指定します。

devicename ファイルを復元するデバイスの名前を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils disaster_recovery schedule add

このコマンドは、設定されているスケジュールを追加します。

```
utils disaster_recovery schedule add schedulename devicename featurelist datetime frequency
```

構文の説明

パラメータ 説明

schedulename スケジューラの名前を表します（必須）。

devicename スケジューリングが行われているデバイスの名前を表します（必須）。

featurelist バックアップするカンマ区切り機能リストを表します（必須）。

datetime スケジューラを設定する日付を表します（必須）。yyyy/mm/dd-hh:mm という形式で 24 時間制で指定します。

frequency バックアップを作成するようにスケジュールを設定する頻度を表します。例：1 回、日次、週次、月次。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils disaster_recovery schedule

このコマンドは、指定されたスケジュールをイネーブルまたはディセーブルにします。

```
utils disaster_recovery schedule {enable | disable} [schedulename]
```

構文の説明

パラメータ 説明

enable 指定されたスケジュールをイネーブルにします。

disable 指定されたスケジュールをディセーブルにします。

schedulename スケジューラの名前を表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

例

```
admin: utils disaster_recovery schedule enable schedule1
Schedule enabled successfully.
```

utils disaster_recovery schedule delete

このコマンドは、設定されているスケジュールを削除します。

utils disaster_recovery schedule delete *schedulename*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>schedulename</i>	削除するスケジュールの名前を表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils disaster_recovery schedule disable

このコマンドは、設定されているスケジュールを無効にします。

utils disaster_recovery schedule disable *schedulename*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>schedulename</i>	無効にするスケジュールの名前を表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils disaster_recovery schedule list

設定されているスケジュールを表示します。

utils disaster_recovery schedule list**コマンドモード**

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

例

```
admin: utils disaster_recovery schedule list
schedule name device name Schedule Status
-----
schedule1      device 1      enabled
schedule2      device 2      disabled
```

utils disaster_recovery show_backupfiles

このコマンドは、ストレージの場所で入手できるバックアップファイルの情報を取得します。

utils disaster_recovery show_backupfiles devicename**構文の説明**

パラメータ 説明

devicename ストレージの場所でバックアップファイルを表示するデバイスの名前を表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils disaster_recovery show_registration

このコマンドは、指定されたサーバに登録されているフィーチャおよびコンポーネントを表示します。

utils disaster_recovery show_registration *hostname*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>hostname</i>	登録情報を表示するサーバを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン**要件**

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils disaster_recovery status

このコマンドは、現在のバックアップまたは復元ジョブのステータスを表示します。

utils disaster_recovery status *operation*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>operation</i>	進行中の操作の名前 (backup または restore) を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils EnhancedSecurityMode*

utils EnhancedSecurityMode disable

このコマンドは、システムで EnhancedSecurityMode モードを無効にします。このモードを無効にした後、システムのリブートが必要です。

utils EnhancedSecurityMode disable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils EnhancedSecurityMode enable

このコマンドは、システムで EnhancedSecurityMode モードを有効にします。このモードを有効にした後、システムのリブートが必要です。

utils EnhancedSecurityMode enable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils EnhancedSecurityMode status

このコマンドは、システムが EnhancedSecurityMode モードまたは非 EnhancedSecurityMode モードのいずれで動作しているかを表示します。

utils EnhancedSecurityMode status

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils filebeat*

utils filebeat config

このコマンドは、情報をダウンロードするための Logstash サーバの詳細を構成します。

utils filebeat config IP address port number log type

構文の説明

パラメータ 説明

IP address Logstash サーバの IP アドレスを入力します。**port number** Logstash サーバのポート番号を入力します。**log type** Logstash サーバにアップロードする必要があるログタイプを入力します。

TLS を有効にして、Filebeat サービスをセキュリティで保護することもできます。パラメータを設定すると、次のプロンプトが表示されます。

Do you wish to secure the filebeat service by enabling TLS?

Enter (yes/no) ?

TLS を有効にする場合は、**Yes** と入力します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils filebeat disable

このコマンドは、システムで Filebeat 構成を無効にします。

utils filebeat disable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils filebeat enable

このコマンドは、システムで Filebeat 構成を有効にします。

utils filebeat enable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils filebeat status

このコマンドは、Filebeat が実行されているかどうか、およびその構成値を表示します。

utils filebeat status

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils filebeat tls

このコマンドは、Filebeat クライアントと Logstash サーバ間の通信用のプロトコルとして、Transport Layer Security (TLS) 1.2を設定します。これにより、Filebeat クライアントと Logstash サーバ間のセキュアな接続が可能になります。これは、コモンクライテリア ガイドラインに準拠するための要件です。

コモンクライテリア モードでは、厳密なホスト名検証が使用されます。そのため、証明書と一致する完全修飾ドメイン名 (FQDN) でサーバを設定する必要があります。

utils filebeat tls {enable | disable | status}

構文の説明

パラメータ	説明
enable	Filebeat クライアントと Logstash サーバ間のセキュアな接続を有効にします。
disable	Filebeat クライアントの TLS を無効にします。
status	TLS のステータスを表示します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

セキュリティ証明書を、Logstash サーバから Unified Communications Manager および IM and Presence サービス上の tomcat 信頼ストアにアップロードする必要があります。

utils fior*

utils fior

このコマンドを使用すると、サーバの I/O をモニタリングできます。ファイル I/O レポートサービスは、プロセスごとにファイル I/O を収集するカーネルベースのデーモンを提供します。

utils fior

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils fior disable

このコマンドは、I/O 統計モニタリングを無効にして、システムで収集されたすべてのモニタリングデータを削除します。このコマンドは、モニタリングを無効にし、データのモニタリングにより使用されるディスク領域を解放するために使用します。

utils fior disable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils fior enable

このコマンドは、I/O 統計モニタリングを有効にします。



(注) このコマンドは、モニタリングが開始される前に使用します。

utils fior enable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils fior list

このコマンドは、すべてのプロセスの I/O イベントをリスト表示します。

utils fior list

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils fior start

このコマンドは、I/O 統計ユーティリティのモニタリングとデータ収集を開始します。モニタリングの開始後、I/O 統計データはプラットフォーム ログに収集されます。このデータは、1 日あたり最大 25 MB 格納できます。データは、データ収集から 7 日後に新しいデータにローテーションされます。このデータは、I/O 統計ユーティリティ モニタリングを無効にすると削除されます。



(注) モニタリングを開始する前に I/O 統計ユーティリティ モニタリングを有効にしてください。

utils fior start

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils fior status

このコマンドは、I/O 統計モニタリング ユーティリティのステータスを示します。

utils fior status

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils fior stop

このコマンドは、I/O 統計モニタリングとデータ収集を停止します。ただし、このコマンドでは収集されたデータは削除されません。



(注) I/O 統計が不要になった場合は、プラットフォームログからのモニタリングデータのクリーンアップを無効にします。

utils fior stop**コマンドモード**

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils fior top

このコマンドは、コマンド実行時の I/O バウンド型プロセスの I/O 統計情報のリストを表示します。

utils fior top**コマンドモード**

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils fips



注意 FIPS モードは、FIPS 準拠のリリースだけでサポートされます。Unified Communications Manager の FIPS 非準拠のバージョンにアップグレードする前に、必ず FIPS モードを無効にしてください。

FIPS 準拠のリリースと、そのリリースの証明書を確認するには、<https://www.cisco.com/c/en/us/solutions/industries/government/global-government-certifications/fips-140.html> の FIPS 140 のドキュメントを参照してください。

このコマンドは、FIPS 140-2 モードをイネーブルまたはディセーブルにします。また、FIPS 140-2 モードのステータスを表示します。FIPS 140-2 モードはデフォルトでディセーブルです。FIPS をイネーブルにできるのは管理者のみです。

utils fips {enable | disable | status}

構文の説明

パラメータ

パラメータ	説明
enable	FIPS 140-2 モードをアクティブにします。
disable	FIPS 140-2 モードを非アクティブにします。
status	FIPS 140-2 モードのステータスを表示します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

FIPS モードを有効にする前に、システム バックアップを実行することを推奨します。FIPS のチェックが起動時に失敗した場合は、システムが停止し、復元するにはリカバリ CD が必要になります。

FIPS 140-2 モードをイネーブルにする前に、次の点を考慮してください。

- 非 FIPS モードから FIPS モードに切り替えた場合は、MD5 および DES プロトコルは機能しません。
- FIPS モードをサーバでイネーブルにした後は、サーバがリブートし、電話機が正常に再登録されるまで待機してから、次のサーバで FIPS をイネーブルにしてください。
- FIPS モードでは、IM and Presence サービスは Raccoon (FIPS 未検証) の代わりに Red Hat Openswan (FIPS 検証済み) を使用します。Raccoon のセキュリティ ポリシーに、FIPS で承認されていない機能が含まれている場合、CLI コマンドは、FIPS で承認された機能を使用してセキュリティ ポリシーを定義し直すよう表示して終了します。



(注) 証明書および SSH キーは、FIPS 要件に応じて、自動的に再生成されます。

FIPS 140-2 モードをディセーブルにする前に、次の点を考慮します。複数サーバのクラスタでは、各サーバは個別にディセーブルにする必要があります。FIPS モードはクラスタ全体でディセーブルにできないため、サーバ単位でディセーブルにしてください。

FIPS 140-2 にモードをイネーブルにした後、次の点を考慮します。シングル サーバクラスタを使用していて、FIPS モードをイネーブルにする前に「Prepare Cluster for Rollback to pre 8.0」エンタープライズパラメータの適用を選択した場合は、すべての電話機がサーバに正常に登録されたことを確認してから、このパラメータをディセーブルにしてください。

IM and Presence サービスの FIPS 140-2 モードを有効または無効にする前に、次のことを考慮してください。IM and Presence サービスの FIPS 140-2 モードを有効または無効にすると、Tomcat 証明書が再生成され、ノードが再起動します。Intercluster Sync Agent は、新しい Tomcat 証明書をクラスタ全体で同期します。この同期が完了するまでには最大 30 分かかります。新しい Tomcat 証明書がクラスタ全体で同期されるまで、IM and Presence サービス サブスクリバ ノードは IM and Presence サービス データベース パブリッシャ ノードの情報にアクセスできません。たとえば、サブスクリバ ノードで Cisco Unified Serviceability GUI にログインしたユーザは、IM and Presence サービス データベース パブリッシャ ノードのサービスを表示できません。同期が完了するまで、ユーザには、証明書例外によるサーバへの接続を確立できないことを通知する、Connection to server cannot be established (certificate exception) というメッセージが表示されます。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils fips_common_criteria

このコマンドは、システムのコモンクライテリア モードを設定します。

```
utils fips_common_criteria {enable | disable | status}
```

構文の説明

パラメータ	説明
enable	システムでコモンクライテリア モードを有効にします。

パラメータ	説明
disable	システムでコモンクライテリアモードを無効にします。 コモンクライテリアモードが無効化されると、最小 TLS バージョンを設定するよう求めるプロンプトが表示されます。
status	システムのコモンクライテリアモードのステータスを表示します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

コモンクライテリアモードを有効化した後では、TLS バージョン 1.0 を使用したセキュア接続は許可されません。コモンクライテリアモードを有効にしている間は、FIPS モードが有効になります。コモンクライテリアモードを有効化または無効化しても、証明書を再生成する必要はありません。ただし、FIPS を有効にしたり無効にしたりするには、証明書の再生成と同時にシステムの再起動が必要です。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager および IM and Presence サービス



(注) この CLI コマンドは、Cisco Unity Connection には適用されません。

utils firewall*

utils firewall ipv4 debug

このコマンドは、IPv4 ファイアウォールのデバッグをオンまたはオフにします。time パラメータを入力しない場合、デバッグは 5 分間オンになります。

utils firewall ipv4 debug {off[時刻]}

構文の説明

パラメータ	説明
off	IPv4 ファイアウォールのデバッグをオフにします。time パラメータを入力しない場合、ファイアウォールは 5 分間ディセーブルになります。

パラメータ	説明
<i>time</i>	(任意) ファイアウォールのデバッグをイネーブルにする期間を次の形式で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 分 : 0~1440m 時間 : 0~23h 時間および分 : 0~23h 0~60m

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

utils firewall ipv4

このコマンドは、IPv4 ファイアウォールをイネーブル/ディセーブルにします。

utils firewall ipv4 {enable | disable[time]}

構文の説明

パラメータ	説明
enable	IPv4 ファイアウォールをオンにします。
disable	IPv4 ファイアウォールをオフにします。time パラメータを入力しない場合、ファイアウォールは 5 分間ディセーブルになります。
<i>time</i>	(任意) ファイアウォールをディセーブルにする期間を次の形式で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 分 : 0~1440m 時間 : 0~23h 時間および分 : 0~23h 0~60m

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

utils firewall ipv4 list

このコマンドは、IPv4 ファイアウォールの現在の設定を表示します。

utils firewall ipv4 list

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

utils firewall ipv4 status

このコマンドは、IPv4 ファイアウォールの現在のステータスを表示します。

utils firewall ipv4 status

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

utils firewall ipv6 debug

このコマンドは、設定された時間、IPv6 ファイアウォール デバッグをオンにします。時間のデフォルト値は 5 分です。

utils ipv6 firewall debug {off[時刻]}

構文の説明	パラメータ	説明
	off	(任意) IPv6 ファイアウォールのデバッグをオフにします。time パラメータを入力しない場合、このコマンドは、デフォルトの時間の値に従ってファイアウォールを無効にします。
	<i>time</i>	(任意) ファイアウォールのデバッグをイネーブルにする期間を次の形式で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 分 : 0~1440m 時間 : 0~23h 時間および分 : 0~23h 0~60m

コマンドモード	管理者 (admin:)
	要件
	コマンド特権レベル : 1
	アップグレード時の使用 : 可能
	適用対象 : Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection。

utils firewall ipv6

このコマンドは、IPv6 ファイアウォールをイネーブル/ディセーブルにします。

utils firewall ipv6 {enable | disable[time]}

構文の説明	パラメータ	説明
	enable	IPv6 ファイアウォールをオンにします。
	disable	IPv6 ファイアウォールをオフにします。time パラメータを入力しない場合、ファイアウォールは 5 分間ディセーブルになります。
	<i>time</i>	(任意) ファイアウォールをディセーブルにする期間を次の形式で設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 分 : 0~1440m 時間 : 0~23h 時間および分 : 0~23h 0~60m

コマンドモード	管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドは、ファイアウォールテーブルをイネーブルまたはディセーブルにするために使用できます。USGv6 プロファイルとのコンプライアンスのために Unified Communications Manager をテストする場合は、テストを開始する前に 23 時間にわたり IPv6 ファイアウォールテーブルをディセーブルにする必要があります。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection。

utils firewall ipv6 list

このコマンドは、IPv6 ファイアウォールの現在の設定を表示します。

utils firewall ipv6 list

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection。

utils firewall ipv6 status

このコマンドは、IPv6 ファイアウォールの現在のステータスを表示します。

utils firewall ipv6 status

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection。

utils ha*

utils ha failover

このコマンドは、特定のノードの手動フェールオーバーを開始します。このとき、Cisco Server Recovery Managerにより、障害が発生したノードのクリティカルサービスが停止され、すべてのユーザがバックアップノードに移行されます。

IM and Presence ノードの場合、バックアップノードは別の IM and Presence サーバである必要があります。バックアップサーバを指定する前に、2つのサーバが同じ既存の冗長グループに割り当てられている必要があります。既存の冗長グループに割り当てられた他のサーバをバックアップサーバに指定します。

utils ha failover {node name}

構文の説明	パラメータ	説明
	node name	手動フェールオーバーを実行するノードを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

適用対象：Unified Communications Manager および Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

failover の例

```
admin: ha failover shorty-cups
Initiate Manual Failover for Node > shorty-cups
Request SUCCESSFUL.
Subcluster Name: DefaultCluster
Node 1 Name : kal-cup1 State: Taking Over Reason: On Admin Request
Node 2 Name : shorty-cups State: Failover Reason: On Admin Request
```

utils ha fallback

このコマンドは、特定のノードの手動フォールバックを開始します。このとき、Cisco Server Recovery Managerによりアクティブなノードでクリティカルサービスが再起動され、ユーザはアクティブなノードに戻されます。

utils ha fallback node name

構文の説明

パラメータ

node name 手動フォールバックを実行するノードを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

適用対象 : Unified Communications Manager および Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

fallback の例

```
admin: ha fallback shorty-cups
Initiate Manual fallback for Node >shorty-cups<
Request SUCCESSFUL.
Subcluster Name: DefaultCluster
Node 1 Name : kal-cup1 State: Falling Back Reason: On Admin Request
Node 2 Name : shorty-cups State: Taking Back Reason: On Admin Request
```

utils haproxy set {required|optional|disable} client-auth

このコマンドは、指定されたポートでのクライアント認証の値を設定します。認証でサポートされている値は、Required、Optional、または Disable です。

次の表に、ポートのデフォルト値を示します。

表 1: ポートのデフォルト値

[Port]	デフォルト値
6971	任意
6972	任意
9443	必須



警告

クライアント認証をデフォルト値以外に設定すると、重大な影響を引き起こす可能性があります。これらの値は、Cisco TAC チームのアドバイスに従っている場合にのみ変更してください。

utils haproxy set {required | optional | disable} client-auth portnum

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>portnum</i>	ポート番号を入力して、HAProxy クライアント認証を設定します。 (注) サポートされているポート番号は、6971、6972、9443 です。
	required	指定されたポートでクライアント認証の値を「required」に設定します。
	optional	指定されたポートでクライアント認証の値を「optional」に設定します。
	disable	指定されたポートでクライアント認証の値を「disable」に設定します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

- ユーザが 6971、6972、または 9443 以外の *portnum* 値を入力すると、有効なポート番号を入力するようエラーメッセージが表示されます。
- 管理者は **help utils haproxy set optional client-auth** コマンドを実行して、ヘルプコンテンツを表示できます。
- *portnum* の設定されているクライアント認証値は、アップグレード中も、ディザスタリカバリシステム (DRS) を使用してバックアップを実行している場合も保持され、復元できます。
- クライアント認証が「required」に設定されている場合、サーバはクライアントからの証明書を要求します。クライアントは、要求された証明書をサーバに提示する必要があります。そのため、要求はそれ以降のサービスに転送できます。
- クライアント認証が「optional」に設定されている場合、サーバはクライアントからの証明書を要求します。クライアントが要求された証明書をサーバに提示しない場合でも、要求はそれ以降のサービスに転送できます。
- クライアント認証を「disable」に設定した場合、サーバはクライアントからの証明書を要求しません。
- このコマンドを実行すると、HAProxy プロセスが再起動します。

要件

コマンド特権レベル：1

適用対象：Unified Communications Manager

例

```
admin:utils haproxy set required client-auth 6971
```

```
This command will result in the HA Proxy service set the client authentication as per your specification and restart the HAProxy process. Restarting of the HAProxy process might result in momentary disconnection of all Phones and Jabber clients that are accessing this service for secure configuration file downloads. It is recommended this operation be performed during off-busy hours and ensure there are no TFTP operations in progress.
```

```
Warning: Setting the client authentication to anything other than default value could have serious implications. Please change these values only as per Cisco TAC team's advise Do you want to continue (yes/no) ? yes
```

```
Successfully set client authentication to required
```

```
HAProxy Process already running .. restarting
admin:
```

```
admin:utils haproxy set disable client-auth 6972
```

```
HAProxy client authentication is already set to disable on port 6972 . No action will be taken.
```

```
admin:utils haproxy client-auth set 1234 disable
Please enter valid values for the port.
Supported values are 6971, 6972 and 9443
```

```
admin:help utils haproxy set required client-auth 6971
```

```
utils haproxy set required client-auth
This command updates the value of client authentication as required on specified port.
```

```
Example:
```

```
admin:utils haproxy set required client-auth 6971
HAProxy client authentication is already set to required on port 6971. No action will be taken.
admin:
```

utils haproxy set num-threads

このコマンドは、HAProxy サービスによって生成されるスレッドの数を設定します。

**警告**

このパラメータをデフォルト値以外の値に設定すると、重大な影響をもたらす場合があります。これらの値は、Cisco TAC チームのアドバイスに従っている場合にのみ変更してください。

```
utils haproxy set num-threads numThreads
```

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>numThreads</i>	<p>設定する HAProxy スレッドの数を入力します。</p> <p>(注) デフォルト値は 1 です。</p> <p>スレッド数のサポートされている値は 1、2、3、4 です。</p>

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

- ユーザーが 1、2、3、4 以外の *numThreads* 値を入力すると、有効な数の haproxy スレッドを入力するようエラーメッセージが表示されます。
- 管理者は **help utils haproxy set num-threads** コマンドを実行して、ヘルプ コンテンツを表示できます。
- 設定された *numThreads* 値は、アップグレードの間だけでなく、ディザスタリカバリ システム (DRS) とリストアを使用してバックアップを実行している場合も保持されます。
- このコマンドを実行すると、HAProxy プロセスが再起動します。

要件

コマンド特権レベル: 1

適用対象: Unified Communications Manager

例

```
admin:utils haproxy set num-threads 3
```

```
This command will result in the HAProxy service spawn as many threads
as you have specified and restart the HAProxy process. Restarting of
the HAProxy process might result in momentary disconnection of all
Phones and Jabber clients that are accessing this service for
secure configuration file downloads and authenticated users data
access. It is recommended this operation be performed during
off-busy hours and ensure there are no TFTP operations in progress.
Warning: Setting this parameter to anything other than default
value could have serious implications. Please change these values
only as per Cisco TAC team's advise
Do you want to continue (yes/no) ? yes
```

```
Successfully set number of HAProxy threads to 3
```

```
Restarting HAProxy process
admin:
```

```
admin:utils haproxy set num-threads 5
Please enter a valid number of HAProxy threads.
Supported values are 1, 2, 3 and 4
```

utils ha recover

このコマンドは、（ノードが障害状態の場合に）既存の冗長グループの手動リカバリを開始します。このとき、IM and Presence により、その既存の冗長グループで Cisco Server Recovery Manager サービスが再起動されます。

utils ha recover *presence redundancy group name*

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>presence redundancy group name</i>	HA ステータスをモニタする既存の冗長グループを指定します。既存の冗長グループ名を指定しないと、すべてのクラスタ情報が提供されます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

適用対象 : Unified Communications Manager および Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

recover の例

```
admin: ha recover Defaultcluster
Stopping services... Stopped
Starting services... Started
admin:
```

utils ha status

このコマンドは、指定されたプレゼンス冗長グループの HA ステータスを表示します。

utils ha status *presence redundancy group name*

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>presence redundancy group name</i>	HA ステータスをモニタするプレゼンス冗長グループを指定します。プレゼンス冗長グループ名を指定しないと、すべてのクラスタ情報が表示されます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

適用対象 : Unified Communications Manager および Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

HA がイネーブルでない場合のステータスの例

```
admin: ha status
Subcluster Name: DefaultCluster
Node 1 Name : kal-cup1 State: Unknown Reason: High Availability Not Enabled
Node 2 Name : shorty-cups State: Unknown Reason: High Availability Not Enabled
```

HA がイネーブルの場合のステータスの例

```
admin: ha status
Subcluster Name: DefaultCluster
Node 1 Name : kal-cup1 State: Normal
Node 2 Name : shorty-cups State: Normal
```

クリティカル サービスがダウンした場合のステータスの例

```
admin: ha status
Subcluster Name: DefaultCluster
Node 1 Name : kal-cup1 State: Failed Over with Critical Services not Running Reason:
Critical Service Down
Node 2 Name : shorty-cups State: Running in Backup Mode Reason: Critical Service Down
```

障害が発生した場合のステータスの例

```
admin: ha status
Subcluster Name: DefaultCluster
Node 1 Name : kal-cup1 State: Failed Reason: Critical Service Down
Node 2 Name : shorty-cups State: Failed Reason: Critical Service Down
```

utils ils showpeerinfo

このコマンドは、ILS ネットワーク内のシングルクラスタ、または ILS ネットワーク内のすべてのクラスタのピア情報ベクトルを返します。

utils ils showpeerinfo *clustername*

構文の説明

パラメー 説明
タ

clustername ILS ネットワーク内の Unified Communications Manager クラスタのパブリッシャノードの完全修飾ドメイン名を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

ピア情報ベクトルには、ILS ネットワーク内のクラスタに関する情報が含まれます。取得できる情報には、クラスタノードのクラスタ名、クラスタ ID、IP アドレスが含まれます。ILS ネットワークの特定のクラスタに関する情報が必要な場合は、*clustername* パラメータを入力しま

す。ネットワーク内のすべてのクラスタ情報が必要な場合は、*clustername* パラメータを空白にします。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager

utils import config

このコマンドは、仮想フロッピー ドライブ上の *platformConfig.xml* ファイルからデータを取得し、設定ファイルに一致するようにシステムを変更します。コマンドの完了後、システムがリブートします。

utils import config

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドは、すべての VMware 展開で実行できます。

1. VMware をオンにします。
2. Answer File Generator (AFG) ツール (http://www.cisco.com/web/cuc_afg/index.html) を使用して、*platformConfig.xml* ファイルを作成します。
3. 仮想フロッピー インスタンスに *Config.xml* ファイルを挿入します (手順については、http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=1739 を参照)。
4. 新しい VMware のフロッピー ドライブに *.flp* ファイルをマウントします。
5. VM の CLI にログイン (コンソールまたは SSH を使用)、**utils import config** コマンドを実行します。

このコマンドは *xml* ファイル内のすべてのデータを実行し、現在の VM の設定と異なるデータが見つかったら、新しいデータと一致するように VM を変更します。

6. 新しい ID を指定した状態でシステムがリブートします。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

VMware 展開での `utils import config` の実行

手順

`utils iostat`

このコマンドは、指定された回数と間隔で `iostat` 出力を表示します。

```
utils iostat {interval | iterations | filename}
```

構文の説明

パラメータ	説明
<code>interval</code>	<code>iostat</code> 読み取り間隔を秒数で設定します。iteration パラメータを使用する場合は、この値を設定する必要があります。
<code>iterations</code>	<code>iostat</code> の繰り返し回数を設定します。interval パラメータを使用する場合は、この値を設定する必要があります。
<code>filename</code>	出力をファイルにリダイレクトします。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

`utils iothrottle`

このコマンドを使用すると、サーバ上の I/O スロットリングを管理およびモニタリングできます。

```
utils iothrottle {enable | disable | status}
```

構文の説明	パラメータ	説明
	Enable	I/O スロットリング拡張をイネーブルにし、アクティブなシステムにアップグレードが与える影響を低減します。
	Disable	I/O スロットリング拡張をディセーブルにします。
	Status	I/O スロットリング拡張のステータスを表示します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン I/O スロットリング拡張をディセーブルにすると、アップグレード時にシステムが影響を受ける可能性があります。

要件

コマンド特権レベル : **Enable** および **Disable** の場合は 1、**Status** の場合は 0

utils itl reset

このコマンドは、エンドポイントが自己の構成ファイルを検証できない場合に使用します。

utils itl reset {localkey | remotekey}

構文の説明	localkey	remotekey
	パブリッシャの既存の ITL ファイルを取得して、新しい ITL ファイルを生成します。このコマンドは、その ITL ファイルの署名を置き換え、ITL 復元キーを使用して新しい ITL ファイルに署名します。	リモート ロケーションからの復元証明書キーペアを格納する PKCS 12 バッグをインポートした後、新しい ITL ファイルを生成します。その新しく生成した ITL ファイルに、復元秘密鍵を使用して署名します。
	remotekey 次のパラメータを持ちます。	
	<ul style="list-style-type: none"> • IPアドレス/ホスト名 • ユーザ ID • ITLRecovery.p12 	

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン



- (注) このコマンドは、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードで実行する必要があります。

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager

例

```
admin:utils itl reset

Name is None

Generating the reset ITL file.....

The reset ITL file was generated successfully

Locating active Tftp servers in the cluster.....

Following is the list of Active tftp servers in the cluster

=====
se032c-94-42
=====

Number of Active TFTP servers in the cluster : 1

Transferring new reset ITL file to the TFTP server nodes in the cluster.....

Successfully transferred reset ITL to node se032c-94-42
```

utils ldap config

このコマンドは、システムの LDAP 認証を設定します。

utils ldap config *{fqdnipaddr}*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>fqdn</i>	システムの LDAP 認証に FQDN を使用するよう設定します。
<i>ipaddr</i>	システムの LDAP 認証に IP アドレスを使用するよう設定します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

- **utils ldap config fqdn** : LDAP 認証にはこのコマンドを使用することをお勧めしますが、このコマンドを使用できるのはシステムに DNS が設定されている場合だけです。システムが DNS を使用するように設定されていない場合は、**utils ldap config ipaddr** を使用してください。
- **utils ldap config ipaddr** : このコマンドの使用はお勧めしません。システムで DNS を使用していないか、または DNS を使用するように設定できない場合にだけ、このコマンドを使用してください。システムが DNS を使用するように設定されている場合は **utils ldap config fqdn** を使用してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

適用対象 : Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection

utils ldap config status

このコマンドは、utils ldap 設定ステータスを表示します。

utils ldap config status

コマンドモード 管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils managementAgent alarms*

utils managementAgent alarms minpushLevel

プッシュ通知が有効になっている場合は、このコマンドを実行して、Unified Communications Manager がプッシュ通知アラームをシスコクラウドに送信する最小アラーム重大度を設定します。

utils managementAgent alarms minpushLevelseverity

構文の説明	<p>パラメータ 説明</p> <hr/> <p><i>severity</i> この値は、Unified Communications Manager がプッシュ通知アラームをシスコクラウドに送信する最小アラーム重大度を表します。オプションは次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クリティカル (Critical) • エラー (Error) (これがデフォルトです) • Warning • [Notice] • 情報
コマンドモード	<p>管理者 (admin:)</p> <p>要件</p> <p>コマンド特権レベル: 1</p> <p>アップグレード時の使用: 不可</p> <p>適用対象: Unified Communications Manager および IM and Presence サービス</p>

utils managementAgent alarms pushfrequency

プッシュ通知が有効になっている場合は、このコマンドを実行して、Unified Communications Manager がプッシュ通知アラームをシスコクラウドに送信する間隔を設定します。

utils managementAgent alarms pushfrequencyminutes

構文の説明	<p>パラメータ 説明</p> <hr/> <p><i>minutes</i> アップロード頻度 (分単位)。この値は 5 ~ 90 の整数にする必要があります。デフォルトは 30 分です。</p>
コマンドモード	<p>管理者 (admin:)</p> <p>要件</p> <p>コマンド特権レベル: 1</p> <p>アップグレード時の使用: 不可</p> <p>適用対象: Unified Communications Manager および IM and Presence サービス</p>

utils managementAgent alarms pushnow

プッシュ通知が有効になっている場合は、このコマンドを実行して、次回のスケジュールされたアップロードを待たずに、プッシュ通知アラームをシスコクラウドにただちに送信します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager および IM and Presence サービス

utils network*

utils network arp delete

このコマンドは、アドレス解決プロトコルテーブルのエントリを削除します。

utils network arp delete ホスト

構文の説明

パラメータ	説明
<i>host</i>	(任意) テーブルから削除するホストのホスト名またはIPアドレスを表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

delete の例

```
admin:utils network arp delete myhost
```

utils network arp set

このコマンドは、アドレス解決プロトコルテーブルにエントリを設定します。

utils network arp set {ホスト} {addr}

構文の説明

パラメータ	説明
<i>host</i>	テーブルに追加するホストのホスト名または IP アドレスを表します。
<i>addr</i>	追加するホストのハードウェア アドレス (MAC) を表します。形式は XX:XX:XX:XX:XX:XX です。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

set の例

admin:utils network arp set myhost 11:22:33:44:55:66

utils network arp list

このコマンドは、アドレス解決プロトコルテーブルの内容を一覧表示します。

utils network arp list host *hostname* [*options*]

構文の説明

パラメータ	説明
host	
<i>hostname</i>	
オプション	(任意) page、numeric

- page : 出力を一度に 1 ページずつ表示するのを一時停止します。

- numeric : ホストをドット区切りの IP アドレスで表示します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

Flags 列の C はキャッシュ、M は相手先固定、P はパブリッシュの意味です。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

list の例

```

admin:admin: utils network arp listAddress HWtype HWaddress
Flags Mask Iface
sjc21-3f-hsrp.cisco.com ether 00:00:0C:07:AC:71 C
eth0
philly.cisco.com ether 00:D0:B7:85:98:8E C
eth0
Entries: 2 Skipped: 0 Found: 2

```

utils network capture

このコマンドは、指定されたイーサネット インターフェイス上の IP パケットを取得します。

utils network capture eth0 [*page*] [*numeric*] [{*filename*}] [{*countnum*}] [{*sizebytes* : バイト数}] [{*srcaddr*}] [{*destaddr*}] [{*portnum*}]

構文の説明

パラメータ	説明
eth0	イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
<i>page</i>	(任意) 出力を一度に 1 ページずつ表示します。 page オプションまたは file オプションを使用した場合、コマンドが完了する前に、要求されたすべてのパケットの完全なキャプチャが完了する必要があります。
<i>numeric</i>	(任意) ホストをドット付き IP アドレスとして表示します。
file <i>fname</i>	(任意) 情報をファイルに出力します。 file オプションは、情報を platform/cli/fname.cap に保存します。ファイル名には「.」文字を使用できません。
countnum	(任意) キャプチャするパケット数を設定します。 画面出力の場合、上限は 1000 です。ファイル出力の場合、上限は 10,000 です。
sizebytes	(任意) キャプチャするパケットのバイト数を設定します。 画面出力の場合の最大バイト数は 128 です。ファイル出力の場合の最大バイト数は任意の数または ALL です。

パラメータ	説明
src addr	(任意) パケットの送信元アドレスをホスト名または IPv4 アドレスで指定します。
destaddr	(任意) パケットの宛先アドレスをホスト名または IPv4 アドレスで指定します。
portnum	(任意) パケットの送信元または宛先のポート番号を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル: 0

アップグレード時の使用: 可能

適用対象: Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

utils network capture-rotate

このコマンドは、**utils network capture** の 100,000 のパケット制限を超えて IP パケットを収集します。

```
utils network capture-rotate {filename} [{sizebytes : バイト数}] [{sizePerFile megabytes}]
{maxFiles num}[{srcaddr}] [{destaddr}] [{portnum}][{host protocoladdr}]
```

構文の説明

パラメータ	説明
file fname	情報をファイルに出力します。 (注) ファイルは platform/cli/fname に保存されます。fname に「.」文字を含めることはできません。
sizebytes	キャプチャするパケットのバイト数。有効な値は、最大 65535 の任意の数または ALL です。デフォルトは ALL です。
sizePerFile megabytes	sizePerFile は、ログファイルのサイズの値を設定します (単位は 100 バイトです)。sizePerFile のデフォルト値は 25 MB です。
maxFiles num	maxFiles は、作成されるログファイルの最大数を指定します。maxFiles のデフォルト値は 10 です。
src addr	(任意) パケットの発信元アドレスをホスト名または IPv4 アドレスとして指定します。

パラメータ	説明
dest addr	(任意) パケットの宛先アドレスをホスト名または IPV4 アドレスで指定します。
port num	(任意) パケットの送信元または宛先のポート番号を指定します。
host protocol addr	(任意) 特定のホストと送受信されるトラフィックのみをキャプチャするように制限します。 <i>protocol</i> のオプションは IP、arp、rarp、all で、 <i>addr</i> は IPv4 またはホスト名形式である必要があります。 host を使用する場合は、 src または dest は指定しないでください。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、 Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

utils network connectivity

このコマンドは、クラスタ内の最初のノード（この接続は後続のノードでのみ有効）とリモートノードとのノードネットワーク接続を確認します。

```
utils network connectivity [{reset}] [hostname/ip address]
```

```
utils network connectivity [hostname/ip address] [port-number] [timeout]
```

構文の説明

パラメータ	説明
connectivity	このコマンドは、クラスタの最初のノードに対するノードネットワーク接続を確認します。 また、2つの必須パラメータ hostname/ip address および port-number があるリモートノードへの接続をチェックするためにも使用されます。
reset	(任意) 前の戻りコードをクリアします。

パラメータ	説明
<i>hostname/ip address</i>	<ul style="list-style-type: none"> • (オプション) パブリッシャまたは最初のノードとのネットワーク接続を確認するためのクラスタノードのホスト名または IP アドレス。 • (必須) リモートサーバでのネットワーク接続を確認するために、TCP 接続についてテストする必要があるホストのホスト名または IP アドレス。
port-number	(必須) 接続テストが必要なホストのポート番号。
<i>timeout</i>	(オプション) ポート接続メッセージが表示されるまでの時間を秒単位で指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

- **utils network connectivity** [**reset**] [*hostname/ip address*] コマンドは、パブリッシャまたは最初のノードへのネットワーク接続をチェックするために使用されます。
- **utils network connectivity** [**hostname/ip address**] [**port-number**] [*timeout*] コマンドは、リモートサーバへのネットワーク接続を確認するために使用されます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

utils network host

このコマンドは、ホスト名をアドレスに、またはアドレスをホスト名に解決します。

utils network host *name* [{*serverserv*}] [**page**] [**detail**] [**srv**]

構文の説明

パラメータ 説明

<i>name</i>	解決するホスト名または IP アドレスを表します。
<i>serv</i>	(任意) 代替のドメインネームサーバを指定します。
[page]	(任意) 出力を一度に 1 画面ずつ表示します。
[detail]	(任意) 詳細なリストを表示します。
[srv]	(任意) DNS SRV レコードを表示します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

utils network ipv6 host

このコマンドは、指定されたホスト名または IPv6 アドレスに基づいて、IPv6 ホスト ルックアップ (または IPv6 アドレス ルックアップ) を実行します。

```
utils network ipv6 host {host_name|ipv6_address}
```

構文の説明

パラメータ 説明

<i>host_name</i>	サーバの名前を指定します。
<i>ipv6_address</i>	サーバの IPv6 アドレスを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection。

utils network ipv6 traceroute

このコマンドを使用すると、IPv6 アドレスまたはホスト名をトレースできます。

utils network ipv6 traceroute [*{ipv6-addresshostname}*]

構文の説明

パラメータ 説明

ipv6-address トレースする IPv6 アドレスを指定します。

hostname トレースするホスト名を指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection。

utils network ipv6 ping

このコマンドを使用すると、IPv6 アドレスまたはホスト名に対して ping を実行できます。

utils network ipv6 ping *destination* [*count*]

構文の説明

パラメータ 説明

destination ping の実行対象として有効な IPv6 アドレスまたはホスト名を指定します。

[*count*] 外部のサーバに対する ping の回数を指定します。デフォルトの回数は 4 です。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection。

utils network ping

このコマンドは、別のサーバに ping を実行します。

utils network ping *destination* [*count*] [*size*]

構文の説明

パラメータ	説明
<i>destination</i>	ping を行うサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。
[<i>count</i>]	外部のサーバに対する ping の回数を指定します。デフォルト数は 4 です。
[<i>size</i>]	ping パケットのサイズをバイト単位で指定します。デフォルト値は 56 です。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

utils network traceroute

このコマンドは、リモートの宛先に送信される IP パケットをトレースします。

utils network traceroute [*destination*]

構文の説明

パラメータ	説明
<i>destination</i>	トレースの送信先のサーバのホスト名または IP アドレスを表します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス および Cisco Unity Connection。

utils network name-service {hosts|services} cache invalidate

このコマンドは、ネーム サービスのキャッシュをクリアします。

utils network name-service {*hosts* | *services*} [*cache invalidate*]

構文の説明	パラメータ	説明
	Hosts	ホストのサービス キャッシュ
	Services	サービスのサービス キャッシュ

コマンドモード 管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

キャッシュのフラッシュまたはクリアについては、次の例を参考にしてください。

```
admin:utils network name-service hosts cache invalidate
admin:
Successful
```

utils ntp*

utils ntp auth symmetric-key

utils ntp auth symmetric-key {enable | disable | status}

このコマンドを使用して、選択した NTP サーバの認証を有効または無効にできます。認証は対称キー ID およびキーに基づいています。対称キーは、Unified Communications Manager で暗号化された形式で保存されます。



(注) このコマンドを実行する前に、NTP サーバのキー ID とそれに対応するキーを把握していることを確認してください。

構文の説明	パラメータ	説明
	enable	使用可能なサーバのリストから NTP サーバの 1 つを選択し、認証を有効にします。
	disable	使用可能なサーバのリストから NTP サーバの 1 つを選択し、認証を無効にします。
	status	リストされているすべての NTP サーバの認証ステータスを表示します。

使用上のガイドライン NTP サーバの認証用のキー ID または対称キーを入力するように求められます。



- (注)
- Unified Communications Manager は、NTP サーバの認証ステータスが変更されたときに Syslog アラートメッセージを送信します。TLS を使用して Syslog サーバへの接続を保護することができます。
 - Unified Communications Manager のインストール後に、NTP サーバ認証を設定できます。

要件

コマンド特権レベル：レベル1はすべてのコマンドを実行でき、レベル0はステータスコマンドのみを実行できます。

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager

例：utils ntp auth symmetric-key status：NTP 認証が有効でない場合にステータスを表示します

```
admin:utils ntp auth symmetric-key status
10.77.32.92 : NTP Authentication is disabled.
10.77.46.203 : NTP Authentication is disabled.

ind assid status conf reach auth condition last_event cnt
=====
 1  8468   963a  yes  yes  none  sys.peer  sys_peer  3
 2  8469   9024  yes  yes  none   reject  reachable 2
```

例：utils ntp auth symmetric-key enable：NTP 認証を有効にします

```
admin:utils ntp auth symmetric-key enable
The List of NTP servers Configured:
1. 10.77.32.92
2. 10.77.46.203
q. press q to exit
Enter the selection for which to configure NTP authentication: 1
Please enter the Key ID [1-65534]:
2
Please enter the Symmetric Key of the NTP Server (SHA1):
Restarting NTP
please run the utils ntp auth symmetric-key status to check the status of NTP
Authentication
```

例：utils ntp auth symmetric-key status：NTP 認証が有効になった後のステータスを表示します

```
admin:utils ntp auth symmetric-key status
10.77.46.203 : NTP Authentication is disabled.
10.77.32.92 : NTP Authentication is enabled.
```

```
ind assid status conf reach auth condition last_event cnt
=====
1 57733 9044 yes yes none reject reachable 4
2 57734 f014 yes yes ok reject reachable 1
```

例 : utils ntp auth symmetric-key disable : NTP 認証を無効にします

```
admin:utils ntp auth symmetric-key disable
The List of NTP servers Configured:
0. All
1. 10.77.46.203
2. 10.77.32.92
q. press q to exit
Enter the selection for which to disable NTP authentication: 2
NTP authentication has been disabled on the particular server.
Restarting NTP
```

例 : utils ntp auth symmetric-key status : NTP 認証が無効になった後のステータスを表示します

```
10.77.46.203 : NTP Authentication is disabled.
10.77.32.92 : NTP Authentication is disabled.
```

```
ind assid status conf reach auth condition last_event cnt
=====
1 42767 9144 yes yes none falsetick reachable 4
2 42768 912a yes yes none falsetick sys_peer 2
```

例 : utils ntp auth symmetric-key status : NTP 認証のステータスを表示します

```
admin:utils ntp auth symmetric-key status
10.77.32.92 : NTP authentication is failed. Please check the NTP authentication Key
ID and Symmetric Key entered is correct. To update, disable and reenable authentication
for this NTP server.
10.77.32.78 : NTP Authentication is disabled.
```

```
ind assid status conf reach auth condition last_event cnt
=====
1 31609 c02c yes no bad reject sys_peer 2
2 31610 803a yes no none reject sys_peer 3
```

utils ntp auth auto-key

utils ntp auth auto-key {enable | disable | status}

このコマンドを使用して、選択した NTP サーバの認証を有効または無効にできます。認証はクライアントキーに基づいています。また、ntp サーバの認証ステータスを確認することもできます。



(注) Unified Communication Manager でコモン クライテリア モードを有効にしている場合にのみ、NTP サーバで IFF ID スキームによる PKI ベースの認証を設定できます。

Unified Communications Manager で、対称キーまたは PKI ベースの NTP 認証を有効にできます。PKI 対応サーバで対称キーを有効にしようとする、次の警告メッセージが表示されます。



警告 Autokeyを使用したNTP認証が現在有効になっており、対称キーを有効にする前に無効にする必要があります。(NTP authentication using Autokey is currently enabled and must be disabled before the symmetric key is enabled.) コマンド「utils ntp auth auto-key disable」を使用してNTP認証を無効にしてから、このコマンドを再試行してください。(Use the command 'utils ntp auth auto-key disable' to disable NTP authentication, then retry this command.)

対称キー対応サーバで Autokey を有効にしようとする、次の警告メッセージが表示されます。



警告 対称キーを使用するNTP認証が現在有効になっており、Autokeyを有効にする前に無効にする必要があります。(NTP authentication using symmetric key is currently enabled and must be disabled before Autokey is enabled.) コマンド「utils ntp auth symmetric-key disable」を使用してNTP認証を無効にしてから、このコマンドを再試行してください。(Use the command 'utils ntp auth symmetric-key disable' to disable NTP authentication, then retry this command.)



(注) NTP サーバには ntp バージョン 4 と rpm バージョン ntp-4.2.6p5-1.el6.x86_64.rpm 以上が必要です。

構文の説明

パラメータ

enable	使用可能なサーバのリストから NTP サーバの 1 つを選択し、認証を有効にします。
disable	PKI 認証対応 NTP サーバのリストから NTP サーバの 1 つを選択し、認証を無効にします。
status	リストされているすべての NTP サーバの認証ステータスを表示します。

使用上のガイドライン

NTP 認証を有効にすると、NTP サーバの認証用の IFF クライアント キーを入力するように要求されます。クライアント キーが正常にアップロードされると、Unified Communications Manager のパブリッシュ ノードで NTP サービスが再開されます。Unified Communications Manager と NTP サーバの間で認証が有効になっていることをポストします。



- (注)
- Unified Communications Manager のインストールまたはアップグレード後に、NTP サーバ認証を設定できます。
 - CLI の実行中に「Ctrl-C」キーを押して実行を終了しないでください。

要件

コマンド特権レベル：：レベル1はすべてのコマンドを実行でき、レベル0はステータスコマンドのみを実行できます。

アップグレード時の使用：不可

適用対象：：Unified Communications Manager

admin:utils ntp auth auto-key enable : NTP 認証を有効にします

```
1: 10.78.83.146
2: 10.77.46.203
3: 10.77.32.92
```

```
Select the server for which auto-key based NTP authentication is to be enabled (Enter q
to exit):2
```

```
Enter the IFF client key for the 10.77.46.203:
```

```
# ntpkey_iffpar_ccm203.3705887848
# Thu Jun 8 10:47:28 2017
```

```
-----BEGIN PRIVATE KEY-----
```

```
MIGzAgEAMIGoBgcqhkjOOAQBMIGcAkEA4r3EkDFdP05QSpzVpGHnZN3JgOkW0Ch9
erxLB7zSxrwNdnDilWg5bUhZZWKZceQd/nyD6FLpZNFrpHnylkBUgQIVAJEjgjZM
r2aaMGSN5x2yUmhT4MqNAkBP2gkQNi8sluLre0YKyc+kdICiRkEK2jKwBETxs7Mh
aEd/c4DQnZkd5U9gco4v9zPpsfPOqftvymVyVmRyKX0NBAMCAQE=
```

```
-----END PRIVATE KEY-----
```

```
The Client key does not match the hostname of the selected NTP server. This could be
because a DNS server is not configured or the DNS entry for this host is not present.
Please verify the client key uploaded corresponds to the selected NTP server and that
the DNS configuration is correct.
```

```
Do you want to continue with this operation?<yes/no>:
```

```
Client key uploaded successfully
```

```
Restarting NTP service.
```

```
Please run 'utils ntp auth auto-key status' to check the status of NTP authentication.
```



- (注) 上記のユーザ警告プロンプトは、DNS サーバが選択された NTP サーバのホスト名を解決でき、提供されたクライアントキーのホスト名と一致する場合は表示されません。

admin:utils ntp auth auto-key status : NTP 認証が有効な場合にステータスを表示します

```
1.10.78.83.146 : NTP Authentication is disabled.
2.10.77.46.203 : NTP Authentication is enabled.
3.10.77.32.92 : NTP Authentication is disabled.
```

```

Select the server for which auto-key based NTP authentication details is to be displayed
(Enter q to exit):
2
  NTP public certificate:
# ntpkey_RSA-SHA1cert_ccm-90.3708840303
# Wed Jul 12 14:55:03 2017

-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIICwTCCAamgAwIBAgIFAN0QaW8wDQYJKoZIhvcNAQEFBQAwETEPMA0GA1UEAxMG
Y2NtLTtkwMB4XDTE3MDcxMjA5MjUwM1oXDTE3MDcxMjA5MjUwM1owETEPMA0GA1UE
AxMGY2NtLTtkwMIIBIjANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8AMIIBCgKCAQEAv0no6hNu
C88VXYcKMCJ6w6hny7eG6JU8LzEjMIN5aqD0FDjnRzIKK/DL5DMReRy4j/4YQTR7
nT9ThudFwyUu0y860pFWBgfKeII6kjtkeLo4mp8RyMLJDP4e0jOh63wCP0cJsdZ1
dXfvx0/OjK6ZdX7OeHtcZn2ycLkSZP6hkos6Un//5zfu1IG47QELiIh3bpFWq647
JiHELeuigcNm2plLSorXgmA3LFBI99pamwF19Lmqb49y0Ie/QchXhud00sG0zuaL
PaEnkPdyNtxvQbCQ24cVBmHup7UBkdZYA+5unpbczMze3tQsl/CvizmUbfA+/gi
/DWSBC4Hfc011QIDAQABoyAwHjAPBgNVHRMBAf8EBTADAQH/MASGA1UdDwQEAwIC
hDANBgkqhkiG9w0BAQUFAAOCAQEAttJbav0+qVPk9abAW1WcmhQUbjw58qrLE9A0
2ZvIvHKq2TyBAIxYcUSQQ3GXSwBDHKZUNSAzrFrTQ+vLFqFvoSH0o5EFruIdrwyn
zCD1OqNXsCPsxyofSDuT/+pxvVxGX1cIpmDa2tieEUcdSvaGxol+ABh008YI6uf
bHNUCdjNSYbF6W0LMS643VS1NEUmBE4Tp+YWpLgbmXDXGalwHlog5fzfnywk161J
n34asWwWmR467WADnPBfMJDWzU1GMceh1lXQ/gbYYX3+rpilEAZF6x9Z/goexhNC
L4WyzBr1R7iueJ1wydFZ5THXOat3bxWMMU4fDzqTWA7G9hP6w==
-----END CERTIFICATE-----
  Client Key:
# ntpkey_iffpar_ccm203.3705887848
# Thu Jun  8 10:47:28 2017

-----BEGIN PRIVATE KEY-----
MIGzAgEAMIGoBgcqhkjOOAQBMIGcAkeEA4r3EkDFdP05QSpzVpGHnZN3JgOkW0Ch9
erxLB7zSxrwNdnDilWg5bUhZZWKZceQd/nyD6FLpZNFrpHny1kBUgQIVAJEjgjZM
r2aaMGSN5x2yUmhT4MqNAkBP2gkQNi8sluLre0YKyc+kdICiRkEK2jKwBETXs7Mh
aEd/c4DQnZkd5U9gco4v9zPpsfPOqftvymVyVmRyKX0NBAMCAQE=
-----END PRIVATE KEY-----
admin:

```

admin:utils ntp auth auto-key disable : NTP 認証を無効にします

```

The List of NTP servers Configured:
1. 10.77.46.203
Enter the NTP server in which the authentication needs to be disabled(Enter q to exit):
1
NTP authentication has been disabled on 10.77.46.203
Restarting NTP
admin:

```

utils ntp server add

このコマンドは、指定した NTP サーバを最大 5 台まで追加します。

```
utils ntp server add sl [{s1s2s3s4s5}] [norestart]
```

構文の説明

パラメータ	説明
-------	----

<i>sl</i> ...	NTP サーバを指定します。
---------------	----------------

norestart	サーバを追加した後に NTP サービスが再起動しないようにします。
------------------	-----------------------------------

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

norestart を使用した場合、変更を有効にするには NTP サービスを明示的に再起動する必要があります。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager

例 : 誤ったコマンドラインパラメータを使用してサーバを追加しようとした場合

```
admin: admin:utils ntp server add s1 s2 s3 s4 s5 s6 s7 s8
Incorrect number of parameters entered for add
usage: utils ntp server add s1 [s2 s3 s4 s5] [norestart]
```

例 : サーバを指定せずに **norestart** を使用してサーバを追加しようとした場合

```
admin: utils ntp server add s1 s2 s3 s4 s5 s6 s7 s8
Incorrect number of parameters entered for add
usage: utils ntp server add s1 [s2 s3 s4 s5] [norestart]
```

例 : **norestart** を使用しないサーバの追加

```
admin: utils ntp server add clock1.cisco.com clock2.cisco.com
clock1.cisco.com : added successfully.
clock2.cisco.com : added successfully.
Restarting NTP on the server.
```

例 : **norestart** を使用しない、すでに追加されているサーバの追加

```
admin: utils ntp server add clock1.cisco.com clock2.cisco.com
clock1.cisco.com : [The host has already been added as an NTP server.]
clock2.cisco.com : [The host has already been added as an NTP server.]
```

例 : **norestart** を使用しない、自身へのサーバの追加

```
admin: utils ntp server add bglr-ccm26
bglr-ccm26 : [This server cannot be added as an NTP server.]
```

例 : **norestart** を使用しない、アクセス不能なサーバの追加

```
admin: utils ntp server add clock3.cisco.com
clock3.cisco.com : [ Inaccessible NTP server. Not added. ]
```

例 : **norestart** を使用したサーバの追加

```
admin: utils ntp server add ntp01-syd.cisco.com ntp02-syd.cisco.com clock.cisco.com
norestart
ntp01-syd.cisco.com : added successfully.
ntp02-syd.cisco.com : added successfully.
clock.cisco.com : added successfully.
The NTP service will need to be restarted for the changes to take effect.
```

例：すでにサーバが5台設定済みの場合のサーバの追加

```
admin:utils ntp server add clock3.cisco.com
The maximum permissible limit of 5 NTP servers is already configured.
```

utils ntp server delete

このコマンドは、設定されている NTP サーバを削除します。

utils ntp server delete

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドでは、設定されている Network Time Protocol (NTP) サーバまたは複数の NTP サーバを削除できます。削除するサーバを選択すると、NTP サービスを再開するかどうか指定するように求めるプロンプトが表示されます。no を選択した場合、サーバが削除された後に NTP サービスは再起動しません。



- (注) 少なくとも1つの NTP サーバが設定されている必要があります。したがって、NTP サーバが1つだけ設定されている場合は削除できません。すべての NTP サーバをすべて削除するオプションを選択した場合、NTP サーバは上から順に削除され、リストの最後の NTP サーバは削除されません。このプロセスは、utils ntp config または utils ntp status の間のトップダウン方式の順序に似ています。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager

例：誤ったコマンドラインパラメータを使用したサーバの削除

```
admin: utils ntp server delete clock1.cisco.com clock2.cisco.com
Incorrect number of optional parameters entered for delete
usage: utils ntp server delete
```

例：NTP を再起動し 1 台のサーバを削除

```
admin: utils ntp server delete
1: clock1.cisco.com
2: clock2.cisco.com
3: ntp01-syd.cisco.com
4: ntp02-syd.cisco.com
5: clock.cisco.com
a: all
q: quit

Choice: 1
```



```
Restart NTP (y/n): y

clock1.cisco.com will be deleted from the list of configured NTP servers.
Continue (y/n)?y

clock1.cisco.com : deleted successfully.
Restarting NTP on the server.
```

例：NTP を再起動せず、すべてのサーバを削除

```
admin: utils ntp server delete
1: clock1.cisco.com
2: clock2.cisco.com
3: ntp01-syd.cisco.com
4: ntp02-syd.cisco.com
5: clock.cisco.com
a: all
q: quit

Choice: a

Restart NTP (y/n): n

This will result in all the configured NTP servers being deleted.
Continue (y/n)?y

clock1.cisco.com : deleted successfully.
clock2.cisco.com : deleted successfully.
ntp01-syd.cisco.com : deleted successfully.
ntp02-syd.cisco.com : deleted successfully.
clock.cisco.com : [The NTP server was not deleted. At least one NTP server is required.]
The NTP service will need to be restarted for the changes to take effect.
```

例：サーバが設定されていない場合のすべてのサーバの削除

```
admin: utils ntp server delete
There are no NTP servers configured to delete.
```

utils ntp config

このコマンドは、NTP クライアントおよびサーバの現在の設定を表示します。



(注) 発生する可能性のある互換性の問題、精度の問題、およびネットワークジッターの問題を回避するには、プライマリ ノードに指定する外部 NTP サーバが NTP v4 (バージョン 4) である必要があります。

utils ntp config

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サーバ、Cisco Unity Connection

utils ntp restart

NTP サービスを再起動します。

utils ntp restart

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils ntp server list

このコマンドは、すべての NTP サーバをリスト表示します。

utils ntp server list

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager の IM and Presence サーバ

utils ntp start

このコマンドは、NTP サービスが実行中でない場合に、NTP サービスを開始します。



(注) コマンドライン インターフェイスからは NTP サービスを停止できません。このコマンドは、utils ntp status コマンドで stopped が返される場合に使用します。

utils ntp start

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サーバ、および Cisco Unity Connection

utils ntp status

このコマンドは、NTP の現在のステータスを表示します。

utils ntp status

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：

アップグレード時の使用：

適用対象：Unified Communications Manager の IM and Presence サービス。

utils os*

utils os kerneldump

このコマンドは、カーネルクラッシュ ダumping メカニズムを提供するカーネルダンプを設定します。カーネルは、カーネルクラッシュが発生すると、ローカルディスクにダンプをキャプチャします。



(注) netdump コマンドはリリース 8.6(1)から削除され、kerneldump コマンドに置き換えられました。

utils os kerneldump {enable | disable}

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

カーネルクラッシュが発生すると、キャプチャカーネルはサーバのローカルディスクにコアをダンプします。プライマリカーネルは、物理メモリに 128MB を予約します。これは、キャプチャカーネルがブートに使用します。カーネルクラッシュが発生するごとに、カーネルダンプは **kexec** コマンドを使用してキャプチャカーネルを起動します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection

例

```

admin: utils os kerneldump enable
*****WARNING*****
Enabling kerneldump requires system reboot
Would you like to boot the machine (y/n):y
kerneldump enable operation succeeded
System going for a reboot

```

utils os kerneldump ssh

このコマンドは、外部SSHサーバをイネーブルまたはディセーブルにします。また、外部SSHサーバのステータスを表示します。

utils os kerneldump ssh {enable | disable | status}

構文の説明

パラメータ

enable	外部 SSH サーバを、カーネルダンプ用のカーネルダンプサーバに設定します。
disable	カーネルダンプを収集するように設定された外部SSHサーバのサポートを削除します。
status	カーネルダンプを収集するために外部SSHサーバが設定されているかどうかを示します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

外部SSHサーバでカーネルダンプサービスがイネーブルになっていて、カーネルクラッシュが発生した場合は、キャプチャカーネルが、ダンプを収集するように設定された外部サーバにコアをダンプします。カーネルダンプをイネーブルまたはディセーブルにした場合は、変更を有効にするためにシステムをリブートする必要があります。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection

例

```
admin: utils os kerneldump ssh disable 10.77.31.60
Disabling kerneldump requires system reboot
Would you like to continue (y/n): y
kerneldump disable operation succeeded
System going for a reboot
```

utils os kerneldump status

このコマンドは、kdump サービスのステータスを示します。

utils os kerneldump status**コマンドモード**

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils os secure

このコマンドは、SELinux が提供するセキュリティ レベルを指定するために使用します。

utils os secure {enforce | permissive | status}**構文の説明**

パラメータ	説明
enforce	
permissive	
status	

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

SELinux がレート制限を処理しないことに注意してください。レート制限は ipprefs および IP テーブルによって処理されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

utils os secure dynamic-policies*

utils os secure dynamic-policies compile

このコマンドは、ダイナミック ポリシー下で記録された拒否を解決する、SELinux ポリシーモジュールとタイプ強制を生成します。

utils os secure dynamic-policies compile *policy name*

構文の説明	<p>パラメータ</p> <p><i>policy name</i> SELinux ポリシー モジュールおよびタイプ強制のコンパイルが行われるダイナミック ポリシー名を入力します。</p>
コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	<p>要件</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の使用 : 可能</p> <p>適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス</p>

utils os secure dynamic-policies list

このコマンドは、すべてのオペレーティング システムのダイナミック ポリシーとそのステータスのリストを表示します。

utils os secure dynamic-policies list

コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	<p>要件</p> <p>コマンド特権レベル : 1</p> <p>アップグレード時の使用 : 可能</p> <p>適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス</p>

utils os secure dynamic-policies load

このコマンドは、ダイナミック ポリシーの SELinux ポリシー モジュールを SELinux にロードします。このコマンドは、新規ルールを SELinux に適用して、ダイナミック ポリシー下で記録された拒否が再発しないようにします。

utils os secure dynamic-policies load *policy name*

構文の説明	<p>パラメータ</p> <p><i>policy name</i> SELinux ポリシーモジュールを生成したダイナミック ポリシー名を入力します。これは、SELinux にロードされません。</p>
コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	<p>要件</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の使用：可能</p> <p>適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス</p>

utils os secure dynamic-policies remove

このコマンドは、オペレーティング システムからダイナミック ポリシーのすべてのデータを削除します。これには、SELinux からのポリシーモジュールのアンロード、および生成されたポリシーモジュール、タイプ強制、記録された拒否、およびデルタ ログの削除が含まれます。

utils os secure dynamic-policies remove *policy name*

構文の説明	<p>パラメータ</p> <p><i>policy name</i> 必要でない、または不要になったダイナミック ポリシー名を入力します。</p>
コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	<p>要件</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の使用：可能</p> <p>適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス</p>

utils os secure dynamic-policies show

このコマンドは、生成されたダイナミック ポリシーの SELinux ポリシー モジュールをロードすることで導入するルールを表示します。このコマンドは、ロードされるルールが安全であることを確認するため、コンパイルが成功した後で実行します。

utils os secure dynamic-policies show *policy name*

構文の説明

パラメータ

policy name ルールを表示するダイナミック ポリシー名を入力します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

utils os secure dynamic-policies start-recording

このコマンドは、SELinuxの拒否の記録を開始し、これらを新しいダイナミックポリシー下に分類します。



(注)

- このコマンドは、システムを **permissive** モードに設定します。
- ダイナミックポリシーはノード単位で生成されます。これらのポリシーには、エクスポートもインポートもできないという制限事項があります。この制限事項には、以下の利点があります。
 - 外部ポリシー モジュールおよび未署名のポリシー モジュールの SELinux へのロードを防ぎます。これらは、セキュリティ上の脆弱性を生み出すおそれがあります。
 - 異なる構成を持つ Unified Communications Manager クラスタ間でのポリシー モジュールの転送を防ぎます。

utils os secure dynamic-policies start-recording *policy name*

構文の説明	<p>パラメータ 説明</p> <hr/> <p><i>policy name</i> SELinux の拒否と将来のポリシーデータが分類されるダイナミック ポリシー名を入力します。</p>
コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	<p>要件</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の使用：可能</p> <p>適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス</p>

utils os secure dynamic-policies stop-recording

このコマンドは、ダイナミック ポリシーの SELinux の拒否の記録を停止します。このコマンドは、システムを元の強制モード (permissive モードまたは enforcing モード) に戻します。このログは、記録の開始から終了までの間に発生したすべての SELinux の拒否のデルタ ログを生成します。



(注) デルタ ログに新しい拒否がない場合、このコマンドは失敗します。その後、ダイナミック ポリシーが消去され、このコマンドを再度使用する必要があります。

utils os secure dynamic-policies stop-recording *policy name*

構文の説明	<p>パラメータ 説明</p> <hr/> <p><i>policy name</i> 記録を停止するダイナミック ポリシー名を入力します。</p>
コマンドモード	管理者 (admin:)
使用上のガイドライン	<p>要件</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の使用：可能</p> <p>適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス</p>

utils PlatformWebAccess*

utils PlatformWebAccess disable

このコマンドは、SSO が有効なときに、Cisco OS 管理アプリケーションおよびディザスタリカバリ システム アプリケーションへのユーザのサインインを制限するために使用します。

utils PlatformWebAccess disable

コマンド モード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

utils PlatformWebAccess enable

このコマンドは、Cisco OS 管理アプリケーションおよびディザスタリカバリ システム アプリケーションへのユーザのサインインを有効にするために使用します。

utils PlatformWebAccess enable

コマンド モード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

utils PlatformWebAccess status

このコマンドは、システムの Web アクセスのステータス (Cisco OS 管理アプリケーションおよびディザスタリカバリ システム アプリケーションでプラットフォーム Web アクセスが有効または無効のいずれになっているか) を表示するために使用します。

utils PlatformWebAccess status

コマンド モード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

utils processCoreDumps*

utils processCoreDumps disable

このコマンドは、プロセス コア ダンプを無効にします。

utils processCoreDumps disable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils processCoreDumps enable

このコマンドは、プロセス コア ダンプを有効にします。

utils processCoreDumps enable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils processCoreDumps status

このコマンドは、kdump サービスのステータスを示します。

utils processCoreDumps status

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils remote_account*

utils remote_account create

このコマンドは、リモートアカウントを作成します。

utils remote_account create

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

リモートアカウントは、パスワードを生成します。シスコのサポート担当者はこれを使用することにより、アカウントの指定有効期間の間、システムにアクセスできます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils remote_account disable

このコマンドは、リモートアカウントをディセーブルにすることができます。

utils remote_account disable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils remote_account enable

このコマンドは、リモート アカウントをイネーブルにすることができます。

utils remote_account enable

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン 同時に有効にできるリモート アカウントは 1 つだけです。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils remote_account status

このコマンドは、リモート アカウントのステータスを確認することができます。

utils remote_account status

コマンドモード 管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils remotesyslog set protocol*

utils remotesyslog set protocol tcp

このコマンドは、システムで、リモート syslog サーバとの通信用のプロトコルを TCP に設定します。ノードを再起動して、変更を有効にします。

utils remotesyslog set protocol tcp

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils remotesyslog set protocol udp

このコマンドは、システムで、リモート syslog サーバとの通信用のプロトコルを UDP に設定します。ノードを再起動して、変更を有効にします。

utils remotesyslog set protocol udp

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils remotesyslog set protocol tls

このコマンドは、システムで、リモート syslog サーバとの通信用のプロトコルを Transport Layer Security (TLS) 1.2 に設定します。TLS 1.2 を使用すると、Unified Communications Manager および IM and Presence サービスが、syslog サーバとのセキュアな接続を確立できるようになります。これにより、Unified Communications Manager と IM and Presence サービスがコモンクライテリアのガイドラインに準拠できます。



(注)

- セキュアな接続は syslog サーバが TLS 1.2 プロトコルをサポートしている場合にのみ確立されるため、syslog サーバが TLS 1.2 プロトコルをサポートしていることを確認してください。
- コモンクライテリアモードでは、厳密なホスト名検証が使用されます。そのため、証明書と一致する完全修飾ドメイン名 (FQDN) でサーバを設定する必要があります。

ノードを再起動して、変更を有効にします。

utils remotesyslog set protocol tls

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

セキュリティ証明書を、syslog サーバから Unified Communications Manager および IM and Presence サービス上の tomcat 信頼ストアにアップロードする必要があります。

utils remotesyslog show protocol

このコマンドは、システムでのリモート syslog サーバとの通信用のプロトコルが TCP または UDP のいずれであるかを表示します。

utils remotesyslog show protocol

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils reset_application_ui_administrator_name

このコマンドは、アプリケーション ユーザ インターフェイスの管理者名をリセットします。

utils reset_application_ui_administrator_name

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils reset_application_ui_administrator_password

このコマンドは、アプリケーション ユーザ インターフェイスの管理者パスワードをリセットします。



- (注) IM and Presence ノードのパスワードを変更する場合は、管理者パスワードをリセットする前に、すべての IM and Presence ノードの Cisco Presence Engine サービスを停止します。パスワードをリセットした後に、すべてのノードの Cisco Presence Engine サービスを再起動します。PE が停止されるとプレゼンスの問題が発生する可能性があるため、このタスクはメンテナンス中に実行してください。

utils reset_application_ui_administrator_password

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils restore_application_ui_administrator_account

このコマンドは、アプリケーション ユーザ インターフェイスの管理者アカウントを復元します。

utils restore_application_ui_administrator_account

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils rosters*

utils rosters list limited

データベース パブリッシャ ノードでこのコマンドを実行すると、無効なウォッチャと無効な連絡先の数を取得できます。合計数は CLI に表示されます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドはメンテナンス期間中にのみ実行することを推奨します。このコマンドでは数だけが表示され、無効なレコードの詳細は表示されません。無効なレコードの詳細については、**utils rosters list [watchers | contacts | full** を試行してください。

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : IM and Presence サービス

utils rosters list full

データベース パブリッシャ ノードでこのコマンドを実行すると、すべての無効なウォッチャおよび無効な連絡先の詳細をファイルに書き込むことができます。また、CLI に合計数が表示されます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドはメンテナンス期間中にのみ実行することを推奨します。

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : IM and Presence サービス

utils rosters list watchers

データベース パブリッシャ ノードでこのコマンドを実行すると、クラスタ内のすべての無効なウォッチャの詳細をファイルに書き込むことができます。無効な連絡先の合計数も CLI に表示されます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン このコマンドはメンテナンス期間中にのみ実行することを推奨します。実行中は、進行状況が CLI およびログ ファイルに表示されます。

要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の使用：不可

適用対象：IM and Presence サービス

utils rosters list contacts

データベース パブリッシャ ノードでこのコマンドを実行すると、クラスタ内のすべての無効な連絡先の詳細をファイルに書き込むことができます。無効な連絡先の合計数も CLI に表示されます。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン このコマンドはメンテナンス期間中にのみ実行することを推奨します。

要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の使用：不可

適用対象：IM and Presence サービス

utils rosters delete

このコマンドをデータベース パブリッシャ ノードで実行すると、IM and Presence クラスタ内の無効なウォッチャおよび無効な連絡先をすべて削除できます。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン このコマンドはメンテナンス期間中にのみ実行することを推奨します。実行中は、進行状況が CLI およびログ ファイルに表示されます。

要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の使用：不可

適用対象：IM and Presence サービス

utils scheduled-task*

utils scheduled-task disable

このコマンドは、スケジュールされたタスクを無効にします。

utils scheduled-task disable **scheduled-task**

構文の説明

パラメータ 説明

scheduled-task 無効にする必要があるタスクの名前を入力します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils scheduled-task enable

このコマンドは、スケジュールされたタスクを有効にします。

utils scheduled-task enable **scheduled-task**

構文の説明

パラメータ 説明

scheduled-task 有効にする必要があるタスクの名前を入力します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils scheduled-task list

このコマンドは、スケジュールされたすべてのタスクを一覧表示します。

utils scheduled-task list

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils set urlpattern*

utils set urlpattern disable

このコマンドは、URL パターンを無効にして、z3z20_product_profile.sh ファイルを変更します。URL パターンを無効化した後、このコマンドは次の行を追加します。

```
export TOMCAT_EXCLUDE_URLPATTERNS="/ucmuser"
```

utils set urlpattern disable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils set urlpattern enable

このコマンドは、URL パターンを有効にして、z3z20_product_profile.sh ファイルを変更します。URL パターンを有効化した後、このコマンドは次の行を追加します。

```
export TOMCAT_EXCLUDE_URLPATTERNS=""
```

utils set urlpattern enable

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils service*

utils service

このコマンドは、サービスをアクティブ化、非アクティブ化、開始、停止、または再起動します。

```
utils service {activate | deactivate | start | stop | restart} service_name
```

構文の説明**パラメータ 説明**

service_name 対象にするサービスの名前を表します。以下に例を示します。

- System NTP
- System SSH
- Service Manager
- Cisco DB
- Cisco Database Layer Monitor
- Cisco Unified Serviceability

この一覧はすべてを網羅しているわけではありません。ノードのすべてのサービスをリストするには、**utils service list** コマンドを入力します。

(注) スタンドアロン Cisco Prime License Manager の Cisco Tomcat サービスを再起動するには、**utils service restart Cisco Prime LM Server** コマンドを実行するか、サーバを再起動します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils service list

このコマンドは、すべてのサービスのリストを取得します。

utils service list [page]

構文の説明

パラメータ 説明

[page] 出力を一度に1ページずつ表示します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

utils service auto-restart

このコマンドは、指定したサービスを開始または停止します。

utils service auto-restart {enable | disable | show}
service-name

構文の説明

パラメータ

説明

enable

自動再起動を開始します。

disable

自動再起動を停止します。

show

サービスのステータスを表示します。

パラメータ	説明
<i>service-name</i>	開始、停止、または表示するサービスの名前を表します。 <ul style="list-style-type: none"> • System NTP • System SSH • Service Manager • Cisco DB • Cisco Tomcat • Cisco Database Layer Monitor • Cisco Unified Serviceability

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils service start

このコマンドは、サービスを起動します。

utils service start

構文の説明

パラメータ	説明
<i>service</i>	サービスの名前を入力します。これは、複数の単語を組み合わせることができません。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

utils service stop

このコマンドは、サービスを停止します。

utils service stop

構文の説明	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="375 548 516 579">パラメータ</th> <th data-bbox="521 548 581 579">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="375 632 467 663"><i>service</i></td> <td data-bbox="521 632 1492 705">サービスの名前を入力します。これは、複数の単語を組み合わせることができます。</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	説明	<i>service</i>	サービスの名前を入力します。これは、複数の単語を組み合わせることができます。
パラメータ	説明				
<i>service</i>	サービスの名前を入力します。これは、複数の単語を組み合わせることができます。				
コマンドモード	<p>管理者 (admin:)</p> <p>要件</p> <p>コマンド特権レベル：1</p> <p>アップグレード時の使用：不可</p> <p>適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。</p>				

utils snmp*

utils snmp config 1/2c community-string

このインタラクティブ コマンドは、コミュニティ ストリングを追加、削除、リスト表示または更新します。

utils snmp config 1/2c community-string {add | delete | list | update}

構文の説明	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="375 1480 516 1512">パラメータ</th> <th data-bbox="521 1480 581 1512">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="375 1564 435 1596">add</td> <td data-bbox="521 1564 1188 1596">新しいコミュニティ ストリングを追加します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="375 1627 467 1659">delete</td> <td data-bbox="521 1627 1188 1659">コミュニティ ストリングを削除します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="375 1690 435 1722">list</td> <td data-bbox="521 1690 1188 1722">すべてのコミュニティ ストリングをリスト表示します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="375 1753 479 1785">update</td> <td data-bbox="521 1753 1188 1785">コミュニティ ストリングを更新します。</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	説明	add	新しいコミュニティ ストリングを追加します。	delete	コミュニティ ストリングを削除します。	list	すべてのコミュニティ ストリングをリスト表示します。	update	コミュニティ ストリングを更新します。
パラメータ	説明										
add	新しいコミュニティ ストリングを追加します。										
delete	コミュニティ ストリングを削除します。										
list	すべてのコミュニティ ストリングをリスト表示します。										
update	コミュニティ ストリングを更新します。										

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン システムによりパラメータの入力が求められます。

設定の変更を有効にするために、SNMP Master Agent サービスが再起動されます。コマンドの実行後は、再起動が完了するまで中止しないでください。サービスの再起動中にコマンドを中止した場合は、`utils service list` を使用して「SNMP Master Agent」のサービスステータスを確認します。サービスがダウンしている場合は、`utils service start SNMP Master Agent` を使用してサービスを開始します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp config 1/2c inform

このインタラクティブコマンドは、インフォーム通知の宛先を追加、削除、リスト表示または更新します。

`utils snmp config 1/2c inform {add | delete | list | update}`

構文の説明

パラメータ	説明
add	通知の宛先を追加します。
delete	通知の宛先を削除します。
list	通知の宛先をすべてリスト表示します。
update	通知の宛先を更新します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

要件

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp config 1/2c trap

このインタラクティブコマンドは、トラップ通知に影響を与えます。

`utils snmp config 1/2c trap {add | delete | list | update}`

構文の説明	パラメータ	説明
	add	設定された v1/2c のコミュニティストリングに関連付けられた新しい v1/2c トラップ通知の宛先を追加します。
	delete	既存の v1/2c トラップ通知の宛先の設定情報を削除します。
	list	現在設定されている v1/2c トラップ通知をリスト表示します。
	update	既存の v1/2c トラップ通知の宛先の設定情報を更新します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection

utils snmp config 3 inform

このインタラクティブ コマンドは、v3 インフォーム通知に影響を与えます。

utils snmp config 3 inform {add | delete | list | update}

構文の説明	パラメータ	説明
	add	設定された v3 ユーザ名に関連付けられた新しい v3 インフォーム通知の宛先を追加します。
	delete	既存の v3 インフォーム通知の宛先の設定情報を削除します。
	list	現在設定されている v3 インフォーム通知をリスト表示します。
	update	既存の v3 インフォーム通知の宛先の設定情報を更新します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

システムによりパラメータの入力が求められます。

設定の変更を有効にするために、SNMP Master Agent サービスが再起動されます。コマンドの実行後は、再起動が完了するまで中止しないでください。サービスの再起動中にコマンドを中止した場合は、utils service list を使用して「SNMP Master Agent」のサービスステータスを確認します。サービスがダウンしている場合は、utils service start SNMP Master Agent を使用してサービスを開始します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp config mib2

このインタラクティブ コマンドは、Mib2 設定情報に影響を与えます。

utils snmp config mib2 {add | delete | list | update}

構文の説明

パラメータ	説明
add	Mib2 設定情報を追加します。
delete	Mib2 設定情報を削除します。
list	Mib2 設定情報をリスト表示します。
update	Mib2 設定情報を更新します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

システムによりパラメータの入力が求められます。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp config 3 trap

このインタラクティブ コマンドは、トラップ通知に影響を与えます。

utils snmp config 3 trap {add | delete | list | update}

構文の説明

パラメータ	説明
add	設定された v3 ユーザ名に関連付けられた新しい v3 トラップ通知の宛先を追加します。

パラメータ	説明
delete	既存の v3 トラップ通知の宛先の設定情報を削除します。
list	現在設定されている v3 トラップ通知をリスト表示します。
update	既存の v3 トラップ通知の宛先の設定情報を更新します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

システムによりパラメータの入力が求められます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp config 3 user

このインタラクティブ コマンドは、v3 ユーザ設定に影響を与えます。

utils snmp config 3 user {add | delete | list | update}

構文の説明

パラメータ	説明
add	v3 認証とプライバシーパスワードを使用して新しい v3 ユーザを追加します。
delete	既存の v3 ユーザの設定情報を削除します。
list	現在設定されている v3 ユーザをリスト表示します。
update	既存の v3 ユーザの設定情報を更新します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

システムによりパラメータの入力が求められます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp get

このインタラクティブ コマンドは、指定した MIB OID の指定したバージョンを使用して SNMP データを取得します。

utils snmp get *version*

構文の説明	パラメータ	説明
	<i>version</i>	SNMP バージョンを指定します。指定できる値は、1、2c または 3 です。
	<i>community</i>	SNMP コミュニティ スtring を指定します。
	<i>ip-address</i>	サーバの IPv4 または IPv6 アドレスを指定します。ローカルホストを指定する場合は、127.0.0.0 を入力します。クラスタ内の別のノードの IPv4/IPv6 アドレスを入力し、そのノード上でコマンドを実行できます。
	<i>object</i>	取得する SNMP オブジェクト ID (OID) を指定します。
	<i>file</i>	コマンド出力を保存するファイルを指定します。

コマンドモード 管理者 (admin:)

使用上のガイドライン MIB 内の特定の OID (リーフ) に対してこのコマンドを実行した場合、その MIB の値が得られます。たとえば、システム稼働時間を取得する場合は、iso.3.6.1.2.1.25.1.1.0 = Timeticks: (19836825) 2 days, 7:06:08.25 となります。

リモートホストの IPv4/IPv6 アドレスを指定すると、コマンドはリモートホストで実行されません。

IPv4/IPv6 アドレスは必須です。ドメイン名は使用できません。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp get 1

このコマンドは、指定した MIB OID のバージョン 1 を使用して、SNMP データを取得します。

utils snmp get 1 *version*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>version</i>	SNMP バージョンを指定します。指定できる値は、1、2c または 3 です。
<i>community</i>	SNMP コミュニティ ストリングを指定します。
<i>ip-address</i>	サーバの IPv4 または IPv6 アドレスを指定します。ローカル ホストを指定する場合は、127.0.0.0 を入力します。クラスタ内の別のノードの IPv4/IPv6 アドレスを入力し、そのノード上でコマンドを実行できます。
<i>object</i>	取得する SNMP オブジェクト ID (OID) を指定します。
<i>file</i>	コマンド出力を保存するファイルを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp get 2c

このコマンドは、指定した MIB OID のバージョン 2c を使用して、SNMP データを取得します。

utils snmp get 2c *version*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>version</i>	SNMP バージョンを指定します。指定できる値は、1、2c または 3 です。

パラメータ	説明
<i>community</i>	SNMP コミュニティ ストリングを指定します。
<i>ip-address</i>	サーバの IPv4 または IPv6 アドレスを指定します。ローカル ホストを指定する場合は、127.0.0.0 を入力します。クラスタ内の別のノードの IPv4/IPv6 アドレスを入力し、そのノード上でコマンドを実行できます。
<i>object</i>	取得する SNMP オブジェクト ID (OID) を指定します。
<i>file</i>	コマンド出力を保存するファイルを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp get 3

このコマンドは、指定した MIB OID の SNMP データを取得します。

utils snmp get 3 *version*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>version</i>	SNMP バージョンを指定します。指定できる値は、1、2c または 3 です。
<i>community</i>	SNMP コミュニティ ストリングを指定します。
<i>ip-address</i>	サーバの IPv4 または IPv6 アドレスを指定します。ローカル ホストを指定する場合は、127.0.0.0 を入力します。クラスタ内の別のノードの IPv4/IPv6 アドレスを入力し、そのノード上でコマンドを実行できます。
<i>object</i>	取得する SNMP オブジェクト ID (OID) を指定します。
<i>file</i>	コマンド出力を保存するファイルを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp hardware-agents

このコマンドは、サーバ上の SNMP エージェントに影響を与えます。

utils snmp hardware-agents {status | start | stop | restart}

構文の説明

パラメータ 説明

status ハードウェア バンダーによって提供されている SNMP エージェントのステータスを表示します。

(注) このコマンドでは、ステータスを示すエージェントだけが表示されません。すべてのハードウェア エージェントがステータスを示すわけではありません。

stop ハードウェア バンダーによって提供されているすべての SNMP エージェントを停止します。

restart ハードウェア バンダーによって提供されているすべての SNMP エージェントを再起動します。

start ハードウェア バンダーによって提供されているすべての SNMP エージェントを開始します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp test

このコマンドは、ローカル syslog、リモート syslog にサンプル アラームを送信します。

utils snmp test

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

例

```

admin: admin:utils snmp test
Service Manager is running

Test SNMP Trap starts with Local Host Name, Specify a Remote Sever Name to test Remote Syslog

TestAlarmInformational sent [Returncode=0]
TestAlarmEmergency sent [Returncode=0]
TestAlarmAlert sent [returncode=0]
TestAlarmCritical sent [Returncode=0]
TestAlarmDebug sent [Returncode=0]
TestAlarmNotice sent [Returncode=0]
TestAlarmWarning sent [Returncode=0]
TestAlarmError sent [Returncode=0]
TestAlarmWindows sent [Returncode=0]

Message from syslogd@ipcbu-plat44 at Sat Jul 17 03:56:11 2010 ...
ipcbu-plat44 local7 0 : 1: ipcbu-plat44.blr.eng: Jul 16 2010 22:26:11.53 UTC :
%UC_-0-TestAlarmEmergency: %[AppID=Cisco CallManager][ClusterID=][NodeID=ipcbu-plat44]:
Testing EMERGENCY_ALARM

```

utils snmp walk

このインタラクティブコマンドは、指定したバージョンを使用してSNMP MIBをウォークし、指定したOIDで開始します。

utils snmp walk *version*

構文の説明

パラメータ 説明

version SNMPバージョンを指定します。指定できる値は、1、2c または 3 です。

community SNMP コミュニティ スtring を指定します。

パラメータ

ip-address サーバの IPv4 または IPv6 アドレスを指定します。ローカルホストを指定する場合は、127.0.0.0 を入力します。クラスタ内の別のノードの IPv4/IPv6 アドレスを入力し、そのノード上でコマンドを実行できます。

object ウォークする SNMP オブジェクト ID (OID) を指定します

file コマンド出力を保存するファイルを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

例

MIB のリーフに対して `snmp walk` を実行すると、基本的に「`utils snmp get ...`」コマンドで得られるのと同じ内容が得られます。例では、ここでシステム稼働時間を取得しています。

```
iso.3.6.1.2.1.1.1.0 = STRING: "Hardware:7825H, 1 Intel(R) Pentium(R) 4 CPU 3.40GHz, 2048
  MB Memory: Software:UCOS 2.0.1.0-62"
iso.3.6.1.2.1.1.2.0 = OID: iso.3.6.1.4.1.9.1.583
iso.3.6.1.2.1.1.3.0 = Timeticks: (15878339) 1 day, 20:06:23.39
iso.3.6.1.2.1.1.4.0 = ""
iso.3.6.1.2.1.1.5.0 = STRING: "bldr-ccm34.cisco.com"
iso.3.6.1.2.1.1.6.0 = ""
iso.3.6.1.2.1.1.7.0 = INTEGER: 72
iso.3.6.1.2.1.2.1.0 = INTEGER: 3
iso.3.6.1.2.1.2.2.1.1.1 = INTEGER: 1
iso.3.6.1.2.1.2.2.1.1.2 = INTEGER: 2
iso.3.6.1.2.1.2.2.1.1.3 = INTEGER: 3
iso.3.6.1.2.1.2.2.1.2.1 = STRING: "lo"
Press <enter> for 1 line, <space> for one page, or <q> to quit
```

utils snmp walk 1

このインタラクティブ コマンドは、指定したOIDから、SNMPバージョン1を使用してSNMP MIB をウォークします。

utils snmp walk 1 *version*

構文の説明

パラメータ 説明

version SNMP バージョンを指定します。指定できる値は、1、2c または 3 です。

community SNMP コミュニティ ストリングを指定します。

ip-address サーバの IPv4 または IPv6 アドレスを指定します。ローカル ホストを指定する場合は、127.0.0.0 を入力します。クラスタ内の別のノードの IPv4/IPv6 アドレスを入力し、そのノード上でコマンドを実行できます。

object ウォークする SNMP オブジェクト ID (OID) を指定します

file コマンド出力を保存するファイルを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp walk 2c

このインタラクティブ コマンドは、指定したOIDから、SNMPバージョン2cを使用してSNMP MIB をウォークします。

utils snmp walk 2c *version*

構文の説明

パラメータ 説明

version SNMP バージョンを指定します。指定できる値は、1、2c または 3 です。

community SNMP コミュニティ ストリングを指定します。

パラメータ	説明
<i>ip-address</i>	サーバの IPv4 または IPv6 アドレスを指定します。ローカルホストを指定する場合は、127.0.0.0 を入力します。クラスタ内の別のノードの IPv4/IPv6 アドレスを入力し、そのノード上でコマンドを実行できます。
<i>object</i>	ウォークする SNMP オブジェクト ID (OID) を指定します
<i>file</i>	コマンド出力を保存するファイルを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils snmp walk 3

このインタラクティブ コマンドは、指定した OID から、SNMP MIB をウォークします。

utils snmp walk 3 *version*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>version</i>	SNMP バージョンを指定します。指定できる値は、1、2c または 3 です。
<i>community</i>	SNMP コミュニティストリングを指定します。
<i>object</i>	ウォークする SNMP オブジェクト ID (OID) を指定します
<i>ip-address</i>	サーバの IPv4 または IPv6 アドレスを指定します。ローカルホストを指定する場合は、127.0.0.0 を入力します。クラスタ内の別のノードの IPv4/IPv6 アドレスを入力し、そのノード上でコマンドを実行できます。
<i>file</i>	コマンド出力を保存するファイルを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils soap realthimeservice test

このコマンドは、リモートサーバ上でいくつかのテストケースを実行します。

utils soap realthimeservice test [*remote-ip*]*remote-https**remote https-password*

構文の説明

パラメータ	説明
<i>remote-ip</i>	テスト対象となるサーバの IP アドレスを指定します。
<i>remote-https-user</i>	SOAP API にアクセス権のあるユーザ名を指定します。
<i>remote-https-password</i>	SOAP API にアクセス権のあるアカウントのパスワードを指定します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、IM and Presence の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils sso*

utils sso

このコマンドは、SAML SSO 認証に関する情報を提供します。

utils sso {*enable* | *disable* | *status*}

構文の説明

パラメータ	説明
<i>enable</i>	SAML SSO をイネーブルにできる Cisco Unified CM 管理の場所を提供します。
<i>disable</i>	SAML SSO ベースの認証をディセーブルにします。
<i>status</i>	SAML SSO のステータスを表示します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

例

```

Admin: utils sso enable
*** W A R N I N G ***
SSO cannot be enabled using CLI command
=====
To enable Cluster wide SAML SSO please access
Cisco Unified CM Administration Page->System->SAML Single Sign On
=====

```

utils sso recovery-url

このコマンドは、SAML SSO ベースの認証のリカバリ URL をイネーブルまたはディセーブルにします。

utils sso recovery-url {enable | disable}

構文の説明

パラメータ	説明
enable	SAML SSO ベースの認証のリカバリ URL をイネーブルにします。
disable	SAML SSO ベースの認証のリカバリ URL をディセーブルにします。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

utils system*

utils system restart

このコマンドは、同じパーティションでシステムを再起動することができます。

utils system restart

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils system shutdown

このコマンドは、システムをシャットダウンすることができます。

utils system shutdown

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

このコマンドは、5分でタイムアウトします。システムが5分以内にシャットダウンしない場合は、強制シャットダウンを実行するオプションが提示されます。



注意

仮想マシンからサーバのシャットダウンおよび再起動が強制されると、ファイルシステムが破損する可能性があります。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

utils system switch-version

このコマンドは、非アクティブなパーティションでシステムを再起動することができます。

utils system switch-version

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils system boot

このコマンドは、システム ブート出力の送信先をリダイレクトします。

utils system boot {console | serial}

構文の説明

パラメータ	説明
<i>console</i>	システム ブート出力がコンソールにリダイレクトされます。
<i>serial</i>	システム ブート出力が COM1 (シリアルポート 1) にリダイレクトされます。

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection

utils system upgrade

このコマンドを使用すると、アップグレードおよび Cisco Option Package (COP) ファイルを、ローカルとリモートの両方のディレクトリからインストールできます。

utils system upgrade {initiate | cancel | status}

構文の説明

パラメータ	説明
cancel	アクティブなアップグレードをキャンセルします。
initiate	新しいアップグレードウィザードを開始するか、既存のアップグレードウィザードを制御します。ウィザードによりソースからのアップグレードファイルの場所を入力するよう求められます。
status	アップグレードのステータスを表示します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

ウィザードでは、アップグレードに関する情報を入力するように要求されます。

- ログイン情報—アップグレードイメージが保存されているサーバのログイン情報があることを確認してください。Unified Communications Manager のパブリッシャー ノードをアップグレードせずに、以前にこのノードをアップグレードしている場合は、パブリッシャー ノードからのダウンロードログイン情報を使用できます。パブリッシャーからのダウンロードログイン情報の使用 (Use download credentials from Publisher) のデフォルト値は [はい (yes)] です。



(注) パブリッシャーノードからのダウンロードログイン情報は、個々のクラスタ ノードをアップグレードする場合にのみ使用できます。このオプションは、クラスタ全体のアップグレードには適用されません。

- ファイルリソースのアップグレード—アップグレードファイルが保存されたサーバの場所を入力します。ローカルソース (CD または DVD) からアップグレードすることも、FTP または SFTP を使用してリモートのアップグレードファイルをダウンロードすることもできます。また、キャンセル操作の後にアップグレードを再開する場合は、ローカルイメージソース オプションを使用して、以前ダウンロードしたアップグレードファイルを使用できます。
- ダウンロード後にアップグレードを続行する—アップグレードファイルがダウンロードされた後でアップグレードを自動的に行うかどうかを指定する必要があります (デフォルト値は yes)。自動アップグレードを選択した場合、チェックサムまたは SHA の詳細は表示されません。値を [はい (yes)] または [いいえ (no)] に設定すると、設定はシステム内に残ります。
- バージョンの切り替え—アップグレードの完了後に新しいバージョンに自動的に切り替えるかどうかを指定する必要があります (デフォルト値は [いいえ (no)] です)。[はい (yes)] を入力すると、システムは新しいバージョンに切り替わり、アップグレードの完了後に自動的に再起動します。値を [はい (yes)] または [いいえ (no)] に設定すると、設定はシステム内に残ります。

要件

コマンド特権レベル : 0

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection。



(注) クラスタのアップグレードが進行中で、CLIを使用して別のアップグレードを開始した場合、次のメッセージが表示されます。

A cluster upgrade is in progress. You can check the status of the cluster upgrade using the CLI or GUI of the CUCM Publisher.

例 :

```
admin:utils system upgrade initiate

Warning: Do not close this window without first canceling the upgrade.
Warning: A cluster upgrade is in progress. You can check the status of the cluster upgrade
using the CLI or GUI of the CUCM Publisher.

Use download credentials from Publisher(yes/no) [yes]:no

Source:

1) Remote Filesystem via SFTP
2) Remote Filesystem via FTP
3) Local DVD/CD
4) Local Image<UCSInstall_UCOS_12.5.0.98000-889.iso>
q) quit
Please select an option (1 - 4 or "q" ): 4

Please enter SMTP Host Server (optional):
Checking for valid upgrades.
Please wait...
Available options and upgrades in "upgrade" directory:
1) UCSInstall_UCOS_12.5.0.98000-338.iso
q) quit
Please select an option (1 - 1 or "q" ): 1
Accessing the file.
Please wait...
Validating the file...
A system reboot is required when the upgrade process completes or is canceled.
This will ensure services affected by the upgrade process are functioning properly.
Downloaded: UCSInstall_UCOS_12.5.0.98000-338.iso
File version: 12.5.0.98000-338
File checksum : (MD5): 8f:ce:0b:12:6b:d5:6f:d5:fd:25:d9:aa:12:d0:d5:30
(SHA512):
84ac0fd21723173ae89f1c01926a0852f46941c1785ae9e55dc8eb426d1c0e07e0c9e3ac71b01a4f7812f239fc38390d2bc44c5161ebf13617c3050
Automatically switch versions if the upgrade is successful (yes/no): yes
Start installation (yes/no): yes
```

例 :

```
admin:utils system upgrade initiate

Warning: Do not close this window without first canceling the upgrade.

Use download credentials from Publisher (yes/no) [yes]:yes
Using publisher setting
Checking for valid upgrades. Please wait...
Available options and upgrades in "10.65.104.39:/var/sftp/uploads":
1.dp-ffr.3-1-7.NL.k3.cop q) quit
```

```
Please select an option (1 - 1 or "q" ):
```

例 :

```
admin:utils system upgrade initiate
```

```
Warning: Do not close this window without first canceling the upgrade.
Use download credentials from Publisher(yes/no) [yes]:no
```

```
Source:
```

```
1) Remote Filesystem via SFTP
2) Remote Filesystem via FTP
3) Local DVD/CD
4) Local Image<UCSInstall_UCOS_12.5.0.98000-889.iso>
q) quit
Please select an option (1 - 4 or "q" ): 4
```

```
Please enter SMTP Host Server (optional):
Continue with upgrade after download (yes/no) [yes]:
switch-version server after upgrade (yes/no) [no]
Checking for valid upgrades.
Please wait...
Available options and upgrades in "upgrade" directory:
1) UCSInstall_UCOS_12.5.0.98000-338.iso
q) quit
Please select an option (1 - 1 or "q" ): 1
Accessing the file.
Please wait...
Validating the file...
A system reboot is required when the upgrade process completes or is canceled.
This will ensure services affected by the upgrade process are functioning properly.
Downloaded: UCSInstall_UCOS_12.5.0.98000-338.iso
File version: 12.5.0.98000-338
Automatically switch versions if the upgrade is successful (yes/no): yes
Start installation (yes/no): yes
```

utils system upgrade cluster

このコマンドを使用すると、ローカルディレクトリおよびリモートディレクトリからクラスターノード（Unified Communications Manager および IM and Presence）と Cisco Option Package（COP）ファイルのアップグレードをインストールできます。

```
utils system upgrade cluster {initiate | cancel | status}
```

構文の説明

パラメータ	説明
cancel	アクティブなアップグレードをキャンセルします。

パラメータ	説明
initiate	<p>新しいアップグレードウィザードを開始するか、既存のクラスタのアップグレードウィザードを制御します。</p> <p>このオプションでは、Unified Communications Manager のパブリッシャーからクラスタ全体のアップグレードを実行できます。</p> <p>このオプションは、Unified Communications Manager のパブリッシャーだけに使用できます。また、Unified Communications Manager のサブスクリバまたは IM および Presence ノードに対しては使用できません。</p>
status	アップグレードのステータスを表示します。

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

ウィザードでは、アップグレードに関する情報を入力するように要求されます。

- ログイン情報—アップグレードイメージが保存されているサーバのログイン情報があることを確認してください。
- ファイルリソースのアップグレード—アップグレードファイルが保存されたサーバの場所を入力します。ローカルソース (CD または DVD) からアップグレードすることも、FTP または SFTP を使用してリモートのアップグレードファイルをダウンロードすることもできます。また、キャンセル操作の後にアップグレードを再開する場合は、ローカルイメージソース オプションを使用して、以前ダウンロードしたアップグレードファイルを使用できます。
- ダウンロード後にアップグレードを続行する—アップグレードファイルがダウンロードされた後でアップグレードを自動的に行うかどうかを指定する必要があります (デフォルト値は yes)。自動アップグレードを選択した場合、チェックサムまたは SHA の詳細は表示されません。値を [はい (yes)] または [いいえ (no)] に設定すると、設定はシステム内に残ります。
- バージョンの切り替え—アップグレードの完了後に新しいバージョンに自動的に切り替えるかどうかを指定する必要があります (デフォルト値は [いいえ (no)] です)。[はい (yes)] を入力すると、システムは新しいバージョンに切り替わり、アップグレードの完了後に自動的に再起動します。値を [はい (yes)] または [いいえ (no)] に設定すると、設定はシステム内に残ります。

要件

コマンド特権レベル : 0

適用対象：Unified Communications Manager の Unified Communications Manager。



- (注) 単一ノードのアップグレードが進行中で、クラスタのアップグレードを開始した場合、次のメッセージが表示されます。

```
failed (Local upgrade is in progress.)
```

CIL またはユーザ インターフェイスを使用して、Unified Communication Manager のパブリッシャーで単一ノードのアップグレードが進行中の場合、CLI を使用してクラスタのアップグレードを開始すると、次のメッセージが表示されます。

```
A Single-node upgrade is in progress. You can cancel the upgrade to initiate Cluster upgrade.
```

クラスタのアップグレードセッションが、ユーザ インターフェイスまたは CLI を使用して、Unified Communication Manager のパブリッシャーに対して進行中の場合、CLI を使用して別のクラスタセッションを開始すると、次のメッセージが表示されます。

```
Another user session is currently configuring a cluster upgrade. Assume control (yes/no):
yes
```

例：

```
admin:utils system upgrade cluster initiate
```

```
Warning: Do not close this window without first canceling the upgrade.
```

Source:

```
1) Remote Filesystem via SFTP
2) Remote Filesystem via FTP
3) Local DVD/CD
4) Local Image<None>
q) quit
Please select an option (1 - 4 or "q" ): 1
Directory [/home/image/BOTH]:
Server [10.65.104.19]:
User Name [image]:
Password [*****]:
Please enter SMTP Host Server (optional):
Continue with upgrade after download (yes/no) [no]:
Switch-version cluster after upgrade [valid only for ISO] (yes/no) [no]:
```

```
Checking for valid upgrades. Please wait...
```

```
Available CUCM options and upgrades in "10.65.104.19:/home/image/BOTH":
```

```
1) UCSInstall_UCOS_12.5.0.98000-541.iso
2) UCSInstall_UCOS_UNRST_12.5.0.98000-541.iso
3) ciscocm.free_common_space_v1.1.cop
4) ciscocm.migrate-export-v1.20.cop.sgn
q) quit
Please select an option (1 - 4 or "q" ): 1
```

```
Available IMP options and upgrades in "10.65.104.19:/home/image/BOTH":
```

```
1) UCSInstall_CUP_12.5.0.98000-661.iso
```

```

2) UCSInstall_CUP_UNRST_12.5.0.98000-661.iso
3) ciscocm.free_common_space_v1.1.cop
4) ciscocm.migrate-export-v1.20.cop.sgn
q) quit

Please select an option (1 - 4 or "q" ): 1
Processing the cluster wide download ...
UCM1-PUB.ciscoctg.com           Downloading..287mb
UCM1-SUB-1B.ciscoctg.com        Downloading..115mb
UCM1-SUB-1A.ciscoctg.com        Downloading..347mb
IMP1-SUB-1B.ciscoctg.com        failed (Local upgrade is in progress.)
UCM1-SUB-2B.ciscoctg.com        Downloading..490mb
IMP1-PUB.ciscoctg.com           Downloading..55mb
UCM1-SUB-2A.ciscoctg.com        failed
Exiting upgrade command.  Please wait...

```

例 :

```
admin:utils system upgrade cluster initiate
```

```
Warning: Do not close this window without first canceling the upgrade.
Cluster upgrade is in progress. You may not take over the installation.
Source:
```

```

1) Remote Filesystem via SFTP
2) Remote Filesystem via FTP
3) Local DVD/CD
4) Local Image <UCSInstall_UCOS_12.5.0.98000-569.iso>
q) quit

```

```

Please select an option (1 - 4 or "q" ): 4
Please enter SMTP Host Server (optional):
Continue with upgrade after download (yes/no) [no]: no
Switch-version cluster after upgrade [valid only for ISO] (yes/no) [no]: no
Checking for valid upgrades.  Please wait...

```

```
Available CUCM options and upgrades in "upgrade" directory:
```

```

1) UCSInstall_UCOS_12.5.0.98000-569.iso
q) quit

```

```

Please select an option (1 - 1 or "q" ): 1
Available IMP options and upgrades in "upgrade" directory:
1) UCSInstall_CUP_12.5.0.98000-695.iso
q) quit

```

```

Please select an option (1 - 1 or "q" ): 1
Processing the cluster wide download ...

```

```

UCM1-SUB-1B.ciscoctg.com           Download complete
UCM1-SUB-2A.ciscoctg.com           Download complete
IMP1-SUB-1B.ciscoctg.com           Download complete
UCM1-SUB-1A.ciscoctg.com           Download complete
UCM1-PUB.ciscoctg.com              Download complete
UCM1-SUB-2B.ciscoctg.com           Download complete
IMP1-PUB.ciscoctg.com              Download complete

```

```
Cluster wide Download complete
```

```
A system reboot is required when the upgrade process is complete or cancelled.
```

```
This will ensure the services affected by the upgrade process are functioning properly
```

```

Downloaded UCM Image: UCSInstall_UCOS_12.5.0.98000-569.iso
File version: 12.5.0.98000-569
File checksum : (MD5): 66:93:bc:4d:c5:ae:19:34:72:77:96:5a:be:1a:28:3d
                  (SHA512): fdaab4a67072528927a2a6c9600b761e086af4894ac0b
                              85221e731fea864567674f6ac2c806fb2a8a05d
                              fe31485ef92ca63f8f4d37448d30715c79bf2738dfd2
Downloaded IMP Image: UCSInstall_CUP_12.5.0.98000-695.iso
File version: 12.5.0.98000-695
File checksum : (MD5): 9e:f3:4e:e0:49:e3:c5:44:16:a5:f9:0e:8d:d5:a7:36

```

```
(SHA512): 57393dd5e70d43137d5fffb906fd815097f66a5a33e1fc
          24bf4b6ed86894a6e0794f5f2165bc8395d2217
          e24ae0b05b4d168b52ae480e5c9f7a29b7170f2ed92a
```

```
The IMP servers in the cluster must be rebooted after Unified CM publisher is switched
to the new version,even IF IMP servers are not being being upgraded
Automatically switch versions if the upgrade is successful (yes/no): no
Start installation (yes/no): yes
Cluster-wide upgrade has been initiated...
```

Node	Role	Step	Description	Historical time to complete	Elapsed Time
Ucm_Pub1	CUCM Publisher	1/15	Installing	1:37:13	00:07:14
IM&P_Pub1	IM&P Publisher	0/15	Waiting on Pub	1:20:13	
Ucm_Sub1	CUCM Subscriber	0/15	Waiting on Pub	1:37:13	
Cluster	None	overall	Overall upgrade	4:34:26	00:07:14

utils system enableAdministration

アップグレード中には設定の変更が許可されませんが、このコマンドを使用すると、アップグレード中に緊急プロビジョニングを有効化にできます。



注意

アップグレードプロセスを開始すると、アップグレードが完了し、すべてのアップグレード後の作業を実行するまで、設定を変更することはできません。次のような設定変更が含まれます。

- Unified Communications Manager または IM and Presence サービス グラフィカルユーザインターフェイス (GUI) 、コマンドラインインターフェイス (CLI) 、AXL API のいずれかを介して行われた変更
- Oracle LDAP から Unified Communications Manager にプッシュされる差分同期を含む LDAP 同期
- 自動化されたジョブ
- 自動登録しようとしているデバイス

アップグレード中に行った設定変更はアップグレード完了後に失われる可能性があり、一部の設定変更によってアップグレードに失敗することもあります。

utils system enableAdministration

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1 および 4

utils update dst

このコマンドは、今年の夏時間（DST）ルールを更新します。

utils update dst

コマンドモード

管理者（admin:）

使用上のガイドライン

このコマンドは、既存の DST ルール ファイルのバックアップを取り、今年を対象とした新しい DST ルール ファイルを作成します。



注意

このコマンドを実行した後は、電話機を再起動します。電話機を再起動しないと、誤った DST の開始日および終了日になります。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager および IM and Presence サービス。

utils users validate

このコマンドは、展開環境のすべてのノードとクラスタでユーザレコードをチェックし、重複しているか、無効なユーザ ID やディレクトリ URI の値を識別します。

utils users validate {all | userid | uri}

構文の説明

パラメータ

パラメータ	説明
all	ノードおよびクラスタ内のすべてのユーザのユーザ ID およびディレクトリ URI の値を検証します。
userid	ノードおよびクラスタ内のすべてのユーザのユーザ ID の値を検証します。
uri	ノードおよびクラスタ内のすべてのユーザのディレクトリ URI の値を検証します。

コマンドモード

管理者（admin:）

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager の IM and Presence サービス

utils vmtools*

utils vmtools refresh

このコマンドは、現在インストールされている VMware ツールを、その VM 用の ESXi ホストによって指示されている最新バージョンに更新します。



(注) 最初のリブート後、VMware ツールは稼働状態になっています。VMware ツールの新しいバージョンにアップグレードした場合、SELinux によりインストールがブロックされることがあります。この場合、システムでは VMware ツールにインストールを許可していますが、それ以上の SELinux によるブロックを抑制する新しいダイナミック ポリシーが生成されます。新しいダイナミック ポリシーは、**utils os secure dynamic-policies list** コマンドを使用して表示できます。詳細については、**utils os secure dynamic-policies CLI** コマンドを参照してください。



(注) これは、ネイティブの vmtools に適用できます。

utils vmtools refresh

コマンドモード

管理者 (admin:)

使用上のガイドライン

VMware ツールの現在のバージョンを更新するには、[ゲスト (Guest)] > [VMWare ツールのインストール/アップグレード (Install/Upgrade VMWare Tools)] > [対話式ツールアップグレード (Interactive Tools Upgrade)] を選択します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection。

例

```
admin:utils vmtools refresh
VMware Tools match host. Upgrade allowed, though not required.
```

```
*** WARNING ***
Running this command will update your current version of VMware Tools
```

to the latest version prescribed by the ESXi host on which this VM is running. The tools install will cause your system to reboot twice.

utils vmtools status

このコマンドは、現在インストールされているVMwareツールの種類とバージョンが表示されます。

utils vmtools status

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils vmtools switch open

このコマンドは、現在インストールされているネイティブのVMware Tools をアンインストールし、オープンVMware ツールをインストールします。

utils vmtools switch open

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils vmtools switch native

このコマンドは、現在インストールされているオープンVMware ツールをアンインストールし、ネイティブVMware ツールをインストールします。

utils vmtools switch native

コマンドモード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、および Cisco Unity Connection

utils system boot status

このコマンドは、システム ブート メッセージの送信先の場所を表示します。この場所は、コンソールまたはシリアル ポート 1 のいずれかです。

utils system boot status

コマンド モード

管理者 (admin:)

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

